

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

沖縄県

自治体名： 沖縄県

担当課名： 教育庁 保健体育課

電話番号： 098-866-2627

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	2,271 km ²
人口	1,467,671 人
公立中学校数	143 校
公立中学校生徒数	47,629 人
部活動数	1,475部活
都道府県の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
都道府県の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における都道府県の現状・課題

【現状】

- ・学校数及び部活動数ともにここ数年横ばいで推移しているが、運動部活動への生徒の加入率は、ここ数年減少傾向にあり、次年度は50%を下回ることが予想される。
- ・学校単位でチーム競技の規定人数を組むことができず、近隣校との合同部活動が増加している。
- ・地域連携を行っている市町村は19市町村あり、部活動指導員の配置希望が多くある。

【課題】

- ・全国的には生徒数の減少が加速しているが、本県においては進展が緩やかなため、市町村によって地域連携・地域移行の取組に差が出ている。
- ・各市町村において担当者は配置されているが、具体的な制度設計のイメージが持ちにくい。
- ・沖縄県は、多数の島々が点在する広大な島しょ地域や、少数人口の村町の推進に課題が多く、ICT活用や広域連携など先進的な事例を共有しながら市町村との連携が必要である。



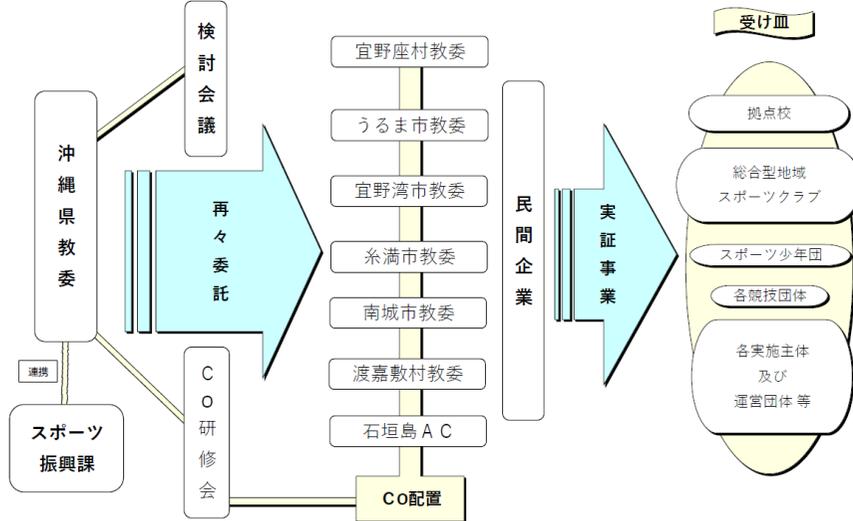
(出典)RESAS

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学校数	152校	149校	149校	150校	152校
生徒数	48,763名	49,716名	49,896名	50,405名	50,384名
部活動数	1,420部	1,453部	1,374部	1,464部	1,475部
加入率	57.7%	56.0%	53.3%	50.6%	50.1%
外部コーチ数	900名	979名	978名	941名	982名
部活動指導員数	53名	52名	71名	122名	135名予定
合同チーム数	コロナ感染拡大のため未調査	20チーム	25チーム	28チーム	39チーム
県総体参加地域スポーツ団体(県中体連認定R5~)	-	-	-	27団体(夏季総体) 12団体(地区新人)	52団体(夏季総体)
総合型地域スポーツクラブ登録数	-	-	4クラブ ※令和4年度登録認定制度スタート	4クラブ	5クラブ

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（都道府県における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・地域移行の方針や計画の策定等
- ・各市町村教育委員会との連携・支援、関係団体との連携
- ・総括コーディネーターの任用
- ・検討会議やシンポジウム開催
- ・市町村における実証事業の支援

◎首長部局

- ・検討会議への参加・シンポジウム運営
- ・各競技団体との連携
- ・各市町村におけるスポーツ部局への情報共有等
- ・スポーツハラスメントに関する研修等

年間の事業スケジュール

令和6年 5月	○令和6年度部活動の地域移行に関する周知説明会（各市町村担当）
令和6年 6月	○第1回部活動の地域移行に関する検討会議
令和6年 7月	第1回コーディネーター研修会（WEB）
令和6年 8月	○6地区教育事務所単位説明会（8月13日～21日）
令和6年 9月	○ブカツ・サポート・コンソーシアムとの連携協定 ○第2回コーディネーター研修会（WEB）
令和6年 10月	○第2回部活動の地域移行に関する検討会議 ○第3回コーディネーター研修会（WEB）
令和6年 11月	○令和6年度地域移行に関する講演会・パネルディスカッション ○第4回コーディネーター研修会（WEB）
令和6年 11月 ～ 令和7年 1月	○実証事業視察
令和6年 12月	○第5回コーディネーター研修会（WEB）
令和7年 2月	○第3回部活動の地域移行に関する検討会議

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

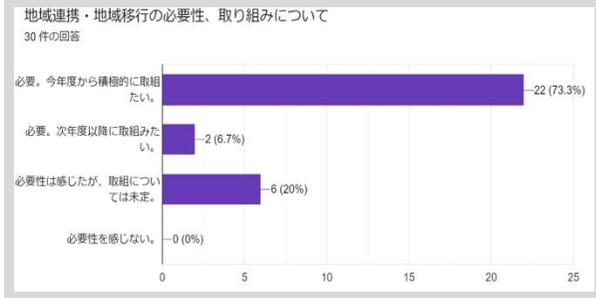
- ・沖縄県総括コーディネーターを活用し広域的な支援を行い、担当者と連携する。
- ・実務担当者とのコーディネーター研修会を開催し、実証事業における指導やアドバイスを行う。
- ・検討会議において専門的な視点や国の動向の説明を通して、最新の情報や県外の実践事例の報告を行う。

取組の成果

- ・地域移行担当者説明会において総括コーディネーターより県外の事例紹介や令和5年度実証事業担当者による成果報告等を行い参加者の73.3%が「今年度から積極的に取り組みたい」と肯定的な意見が多くあった。また、振り返りアンケートの自由記述には、実態調査アンケートの実施に向けて取り組みたいとの意見もあり、このことから、市町村の取り組みをスモールステップで進めることが期待でき、総括コーディネーターとともに支援していく。
- ・各市町村における庁内での勉強会にも積極的に参加し、教育長をはじめ、担当課や関係部署とともに、地域の実態に応じた制度設計等について意見交換を行うことが来た。

振り返りアンケート自由記述より抜粋

- ・実態調査のためのアンケートを実施したり少しずつできることを模索しているところです。
- ・今回の説明会は先行事例等を確認することができ、大いに参考になる会でした。
- ・まずは実態調査や中学校での現状を校長会にて共有して学校と共に進めていきたい。
- ・地域の実情に応じて取り組むことや子どもたちの環境作りの視点など今後検討していきたいと思いました。



コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・沖縄県部活動地域移行検討会議 委員（年3回）
- ・各地区担当者向け周知説明会（5月）
- ・6地区教育事務所単位周知説明会（8月13日～21日）
- ・市町村勉強会 6市町村1団体 計10回

今後の課題と対応方針

- ・今年度、総括コーディネーターを活用して推進を図ったが、地域移行に関する温度差が大きいため、先進地の事例紹介等を積極的に行う。
- ・沖縄県特有の地理的条件（島しょ地域や少人数の村町）を踏まえ、県内をエリアに分け、エリアごとの勉強会やワークショップを開催し担当者同士の連携強化に努める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ①令和6年11月に県内競技団体等を対象としたスポーツハラスメントの防止に係る研修会の開催
- ②同研修内容について、各競技団体が独自の研修等で活用できるようコンテンツ化を図る
- ③スポーツハラスメントに関する予防啓発コンテンツの作成

研修会参加団体

- ・沖縄県、沖縄県教育委員会、市町村教育委員会
- ・県スポーツ協会、中学校体育連盟
高等学校体育連盟、市郡体育・スポーツ協会
スポーツ少年団関係
- ・競技団体（13）
ソフトボール、バスケットボール、ハンドボール
ボウリング、ラグビーフットボール、バドミントン
軟式野球、陸上競技、アーチェリー、バレーボール
サッカー、ウエイトリフティング、パワーリフティング

コンテンツについて

- ・スポーツハラスメント予防のコンテンツ制作を通じて、指導者・選手・保護者の意識改革を促し、安心してスポーツができる環境形成につなげる。
- ・誰もがアクセスしやすい情報提供を目指すとともに、関係団体を通じて周知を図り、スポーツハラスメントに対する意識を高める。

取組の成果

・研修会

県内スポーツ関係団体（21団体）から69名が参加。実施後のアンケートでは、回答者の88%から高い満足度（非常に満足54%、満足34%）を得られた。スポーツ活動におけるハラスメントの現状と課題について、共通認識が図られ、今後実効性のある取り組みが期待できる。

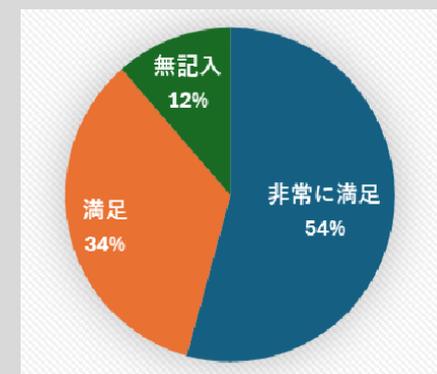
・コンテンツ

年度内に作成する研修会や予防啓発のコンテンツについて、令和7年度に活用ができるよう、関係団体への周知を図り、展開していく。

スポーツハラスメント防止研修会 事後アンケート集計結果

回答（35/69名）
回答率：50.7%

- 非常に満足 54%
- 満足 34%
- 無記入 12%



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【スポーツハラスメント防止研修会】

- ・対象：各競技団体、中学校体育連盟、高等学校体育連盟
地域スポーツ活動の指導者等
- ・目的：スポーツハラスメントの課題に対して、各競技団体が主体となった、指導者の倫理観を含む資質・能力向上の取り組みを推進する機会とする
- ・工夫した点：各競技団体等が、スポーツハラスメントに問題意識を持ち、課題解決に向けた主体的な取り組みを推進するため、各競技団体の理事長や事務局長などの参加を依頼した。

【講演・実践発表】

○ジャーナリストの島沢優子氏

スポーツ現場における取材や多くの関りから、指導方法の変革や歴史的な視点での課題解決の重要性に関する講話

○沖縄県ハンドボール協会 三輪一義氏

ハンドボール協会の組織的なハラスメント防止教育の実践方法発表

受講者の声

- ・具体的な事例紹介や、組織的な取り組みの重要性について多くの学びがあった。
- ・「厳しい指導」と「ハラスメント」の線引きが難しい。
- ・スポーツ文化（指導）の変革が重要・必要である。
- ・「勝利至上主義」や「旧来の指導方法」からの脱却が課題、指導者はもとより意識改革と教育の継続が重要である。
- ・「若い指導者や今後指導者となり得る選手への教育がハラスメント防止の鍵」となる。

今後の課題と対応方針

- ・今回の研修をふまえ、各競技団体等がスポーツハラスメント防止に関する取り組みを推進する際は、情報の提供や共有など継続した支援が必要。
- ・県スポーツ協会が実施した県内保護者向けのアンケートでは、スポーツハラスメントを容認する傾向が全国より高い傾向にある。また、学校部活動の地域展開について、学校や関係団体への周知が不十分(周知説明会の開催が80%の自治体で未実施)であることから、地域移行とスポーツハラスメントに関し生徒や保護者向けに講演会などを実施し、周知を図る必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・検討会議及び関係団体との連携強化
- ・新たな受け皿となり得る団体との連携
- ・関係者への周知、勉強会の実施
- ・民間団体との連携強化

取組の成果

- ・スポーツ振興課（知事部局）及び沖縄県スポーツ協会と連携し、スポーツハラスメント防止研修会を開催することにより、参加者の意識向上が図られ、今後の更なる連携強化につながった。
- ・民間のコンソーシアムと連携協定を結び、重点地域の政策課題へ取組む6地域への支援をいただいた。また、研修e-Learningを実証事業へ参加する指導者へも受講してもらい、指導者の質の向上につなげることができた。
- ・沖縄県スポーツ協会の総合型地域スポーツクラブ担当者との地域移行勉強会を実施し、受け皿としての可能性を共有した。



今後の課題と対応方針

- ・次年度のハラスメント防止研修会において、地域移行の説明等の内容も取り入れ、多くの関係者に対して周知・啓蒙活動を行う。
- ・今年度、ブカツ・サポート・コンソーシアムとの連携協定により、指導者の派遣等の支援を受けることができた。次年度以降はさらに連携強化し、ブカツ・サポート・コンソーシアムのリソースが、多くの市町村で活用できるように調整を行う。
- ・沖縄県内の総合型地域スポーツクラブ数は少ないが、地域スポーツクラブの新たな受け皿確保に向け、スポーツ振興課およびスポーツ協会の担当者との連携により得られる情報を、市町村担当者と共有しながら新たな受け皿確保の模索に向けたアプローチを検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費負担の支援等 / キ：学校施設の活用等

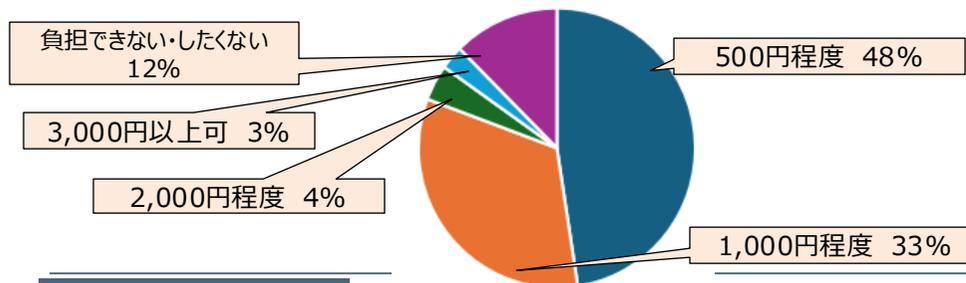
取組事項（カ）

- ・会費の適切な設定等や費用負担の在り方について検討
- ・県内で実証事業を実施している市村において、参加費徴収を行わずにクラブ運営を行っており、他の自治体の状況を参考に次年度以降の参加費負担の参考とする。

取組の成果（カ）

- ・県外において参加費を徴収して活動を行っている自治体や、今後参加費を徴収する運営を計画している自治体を視察し、金額の設定や、困窮世帯への支援等の事例を学ぶことができた。これにより、次年度以降の参加費負担の在り方の検討材料とすることができた。

※参考【R5 県立中学校アンケート調査（保護者）】



今後の課題と対応方針

- ・参加費負担調査は、令和5年度に県立中学校を対象に実施しているため、今年度は実施していない。先進地の事例を参考に、学校施設の有効活用と施設使用料の軽減も合わせて検討を行う。

取組事項（キ）

- ・地域クラブ活動の環境整備に向けた、県立学校施設利用についての検討

取組の成果（キ）

- ・県立学校施設開放事業を活用し、地域クラブ活動を行う予定であったが、調整等がうまくいかず、今年度は活用できなかった。県立学校開放事業活用に向け、早期に市町村との調整が必要である。
また、一般の社会体育施設で地域クラブ活動を実施した際は使用料等がかかるため、今後も県立学校体育施設の有効活用の在り方を検討する必要がある。

- ・県立学校施設開放事業を活用した地域クラブ活動の実証事業が実施できるよう、市町村と連携して調整を行い、調整段階の進捗を確認する。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

1、地域移行に関する検討会議

回数：3回

目的：地域移行の現状と課題の共有と協議

成果：現状と課題の共有と解決策を検討

2、説明会の実施（担当者、6地区教育事務所単位）

回数：7回

目的：担当者や関係者の理解促進と連携強化

成果：担当者の理解や連携が強化された

3、スポーツハラスメント防止研修会

目的：指導者の倫理観を含む資質・能力の向上

対象：各競技団体、地域スポーツ活動等の指導者等

成果：現状と課題について共通認識が図られた

4、講演会・パネルディスカッション

目的：実践事例を共有し、各市町村の参考とする

対象：行政担当、保護者及び学校関係者等

成果：講演会やディスカッションで新たな視点の共有

5、市町村勉強会

回数：6地区10回

目的：各市町村ごとの課題解決に向けたアドバイス

成果：地域の特性に応じたスモールステップによる推進

●成果の評価

1、地域移行に関する検討会議において、情報共有、実証事業の進捗確認、人材バンクの設置など議論が行われた。これにより、地域移行に関する現状と課題や解決策等について共通確認が得られ、各委員からの意見を基に、取り組み等の方針も検討された。

2、担当者会や6教育事務所単位説明会を開催することで、専門的な知見の蓄積が行われ、参加した関係者の連携強化も図られた。

3、スポーツハラスメントの課題に対して、各競技団体が主体となった、指導者の倫理観を含む資質・能力向上の取り組みを推進することができた。

4、講演会やディスカッションの開催により、県内外の実践事例の共有と、ディスカッションによる新たな視点やアイデアの共有ができた。

5、各市町村の勉強会へ参加することで、各地域ごとの課題の違いを理解し、市町村担当者等との意見交換でスモールステップでの取り組みに関する共通認識が図られた。

●今後に向けて

1、検討会議を継続開催し、関係団体との連携を強化することで、協力体制の構築・情報共有を深化させ、各市町村の支援を図る。

2、ワークショップなどを計画し、地域ごとの課題や解決するためのアイデアを出し合い、参加者同士のコミュニケーションとチームワークの醸成を図る。

3、今年度とは別のアプローチからスポーツハラスメントの防止に関する取組を推進し、子どもたちが安心・安全にスポーツ活動ができるような環境整備を推進。

4、講演会等による先進的な取組の情報共有を図る目的で、今後も継続的に開催する。

5、個別の相談による地域の特性に合わせた推進を図る。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

・今年度は、地域連携・移行に関する市町村向け実態調査を9月と1月の2回実施。年度途中と年度末の2回実施することで、各市町村の取組進捗状況や取組状況等を確認することができた。

・本県は離島地域も多く、統一したアンケート内容のほか、地域別の課題等の把握につながるアンケート内容を検討していく。
 ・保健体育課ポータルサイトを活用し、研修等の資料の共有。

参考資料

実態調査 9月実施

令和6年度 地域移行に関する実態調査



⑩実態調査・検討会議・周知説明会以外の取組について

※回答：17自治体

- 7 県保健体育課と町教委の勉強会及び地域移行関係者との勉強会
- 8 庁内関係課（担当者）勉強会、検討委員会設置の準備
- 9 県総括コーディネーターを招いての教育委員会内部勉強会
（参加対象：教育長、教育部長、学校教育課、社会教育課、町内2中学校校長等）
- 10 中学校および教育委員会との今後の移行スケジュールの協議済み
- 11 R5：実態調査、意見交換会の実施
R6：・本市校長研修会において部活動地域連携・地域移行について協議
・地域クラブ立ち上げ支援を行い1校1クラブで実施
・拠点校方式による部活動の立ち上げ支援を行い2校3部活動で実施
・競技団体等に受け皿や指導者の確保に向けたアンケート調査実施
- 12 中学校長、教頭への説明

10

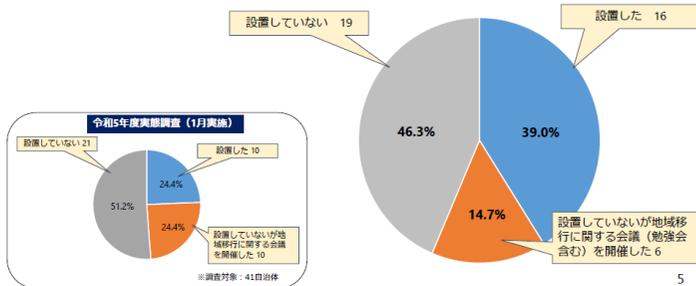
実態調査 1月実施

令和6年度 地域移行に関する実態調査（1月実施）



⑨検討会議・協議会の設置について

※調査対象：41自治体

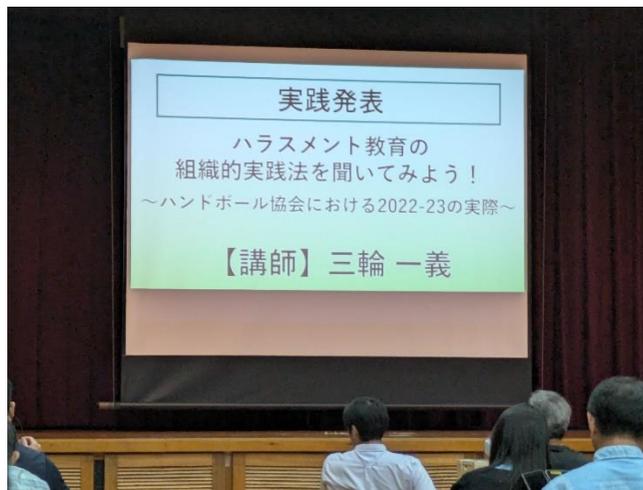


5



2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【スポハラ防止研修会】



【担当者向け周知説明会】



【講演会・パネルディスカッション】



【講演会・パネルディスカッション】

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

沖縄県教育委員会 休日の運動部活動の段階的な地域連携・地域移行【R5～R7】

		休日の段階的な地域移行に向けて改革推進期間																																				
所管部署	業務内容	令和5年度												令和6年度												令和7年度												令和8年度
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
沖縄県教育委員会	検討会議	推進計画策定検討			推進計画の周知・活用 ・実証事業の進捗・成果報告									各市町村の進捗状況各を踏まえ、段階的な地域移行を促していく (県内取組状況、先進地の取組紹介等)												地域展開等の推進に向けた推進計画見直し ・ロードマップの見直し ・兼職兼業の在り方検討												改革実行期間前期（R8～R10） ・総括コーディネーターを活用した市町村への支援 ・更なる支援方策
	周知活動研修等	周知説明会の実施（6教育事務所及び各市町村教育委員会） ・各種会合等へ積極的に周知活動実施												各市町村担当者向け説明会の実施（前年度成果報告・取組等） ・6地区教育事務所単位の説明会実施（担当者・保護者・学校関係者・スポーツ団体等） ・市町村勉強会にて制度設計等の助言等 ・シンポジウムの開催（2回） ・地域連携・地域移行に関する市町村実態調査												各市町村教育委員会及び各種会合等へ説明会・勉強会・研修会の実施 (県内取組状況・制度設計説明・ワークショップ等) ・各市町村における検討委員会等への参加 ・シンポジウムの開催 ・地域連携・地域展開に関する実態調査												
	兼職兼業	教職員の地域スポーツ指導者としての兼職兼業について検討												教育公務員特例法第17条に基づく兼職兼業の許可となるか、地域団体の性質や業務内容等を総合的に勘案し判断												先進地等の取組を参考に、兼職兼業の活用方法の検討												
	国庫委託事業 実証事業	総括コーディネーター1名、3市村1地区へ各1名を配置 ※総括コーディネーターを中心に協働体制を構築する。												総括コーディネーターを活用した各市町村への支援体制 ・実証事業から各取組の課題等の創出・解決策の検討												総括コーディネーターを活用した各市町村への支援体制 ・実証事業から各取組の課題等の創出・解決策の検討												
	国庫補助事業 部活動指導員	希望する各市町村（県立含む）へ配置。												希望する各市町村（県立含む）へ配置（R5より配置増員） ・部活動指導員活用状況視察												希望する各市町村（県立含む）へ配置（R6より配置増員予定） ・部活動指導員活用状況視察												
	施設等	県立学校における利用の在り方等について検討												県立学校における利用ルールづくり及び周知、利用促進（体育館やグラウンド、武道場等）																								
	退職教員の活用	退職教員の地域スポーツ指導者への登録等について検討												退職教員の学校及び地域スポーツクラブ等への利用促進及び人材バンク等への加入促進																								
指導者研修	指導技術、暴力・暴言・ハラスメント等に関する研修会実施について実施												スポーツハラスメント研修会の実施 (※保健体育課・スポーツ振興課・スポーツ協会)												スポーツハラスメント研修会の実施 ・競技団体におけるスポーツハラスメント防止の実証													
スポーツ振興課	周知活動	地域移行へ向けての周知活動 ・地域移行へ向けての実態把握と、関係諸団体と調整																								地域展開へ向けての競技団体等への周知活動 ・地域展開へ向けての実態把握と、関係諸団体等と調整 ・スポーツ協会との連携												
	指導者の確保及び研修等													スポーツハラスメント研修会の実施 (保健体育課・スポーツ振興課・スポーツ協会 主幹)												スポーツハラスメント研修会の実施 ・競技団体におけるスポーツハラスメント防止の実証												

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

沖縄県 宜野湾市

自治体名： 沖縄県宜野湾市
担当課名： 指導課
電話番号： 098-892-8289

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	19.8 km ²
人口	100,443 人
公立中学校数	4 校
公立中学校生徒数	3,094 人
部活動数	64 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

(取り組み)

【令和5年度】部活動地域移行に向けた「周知期間」
・7月「市内教職員へのオンライン研修会開催」オンライン形式
・11月30日「地域及び保護者への周知説明会開催」はごろも小学校
・12月27日「総合教育会議」において「中学校部活動の地域移行の必要性」について審議

【令和6年度】部活動地域移行に向けた「推進期間」モデル校1中学校の地域移行
①「運動部活動の地域移行に関する検討会議」の発足。(年3回)
②休日の部活動地域移行実証事業実施。宜野湾中学校
③「重点地域の政策課題への取り組み」大学連携による地域クラブ活動 沖縄国際大学における硬式テニス事業
12/4教育長より沖縄国際大学長へ依頼文書を提出

【令和7年度】部活動地域移行に向けた「推進期間」モデル校2中学校の地域移行
【令和8年度】部活動地域移行に向けた「推進期間」モデル校4中学校の地域移行

(取り組みの成果)

- ・地域の持続可能で多様なスポーツ環境を一体的に整備することで、少子化の中でも子どもたちがスポーツや文化活動に継続して親しむことができる機会を確保できた。
- ・地域で複数の活動を提供することで、子どもたちの多様な活動や体験機会が確保できた。
- ・部活動を地域に移行することで、学校の働き方改革が推進され学校教育の質が向上した。

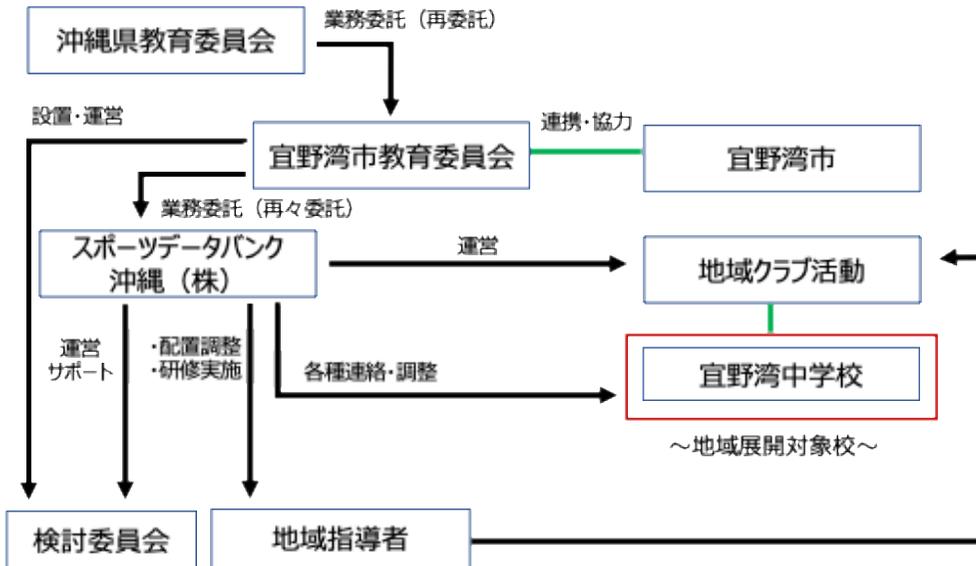
(今後の課題)

- ・取り組みに耐えうる組織・人員体制の構築や周知活動
- ・活動場所の確保といった環境整備や制度設計等
- ・地域支援、地域移行に係る受け皿づくりや必要な財源確保

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・ 本事業の主管課・方針の決定
- ・ 学校への通達及び調整
- ・ 検討委員会の設置、委員選定

◎首長部局

- ・ 教育委員会との連携
- ・ 学校体育施設の有効活用に関する検討、連携

年間の事業スケジュール

令和6年06月	・契約締結 ・庁内関係部署との打ち合わせ
令和6年07月	・対象地域クラブの学校調整
令和6年08月	・対象地域クラブの決定
令和6年09月	・指導者の選定
令和6年10月	・指導者研修 ・保護者説明会
令和6年11月	・ <u>実証スタート (ダンス)</u>
令和6年12月	・実態調査アンケート
令和7年01月	・実証後ヒアリング
令和7年02月	・事業完了報告

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ（ダンス）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		－
全体の指導者数	1人	全体の運営スタッフ数	3人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
宜野湾市地域クラブ	民間事業者	ダンス	月3回程度	主に午前中	2年生 1年生 (18名)	令和6年11月 ～令和7年1月	学校 武道場	1人	3人 (内、兼務×3人)	なし	【中体連】 部活動 【その他】 地域クラブ

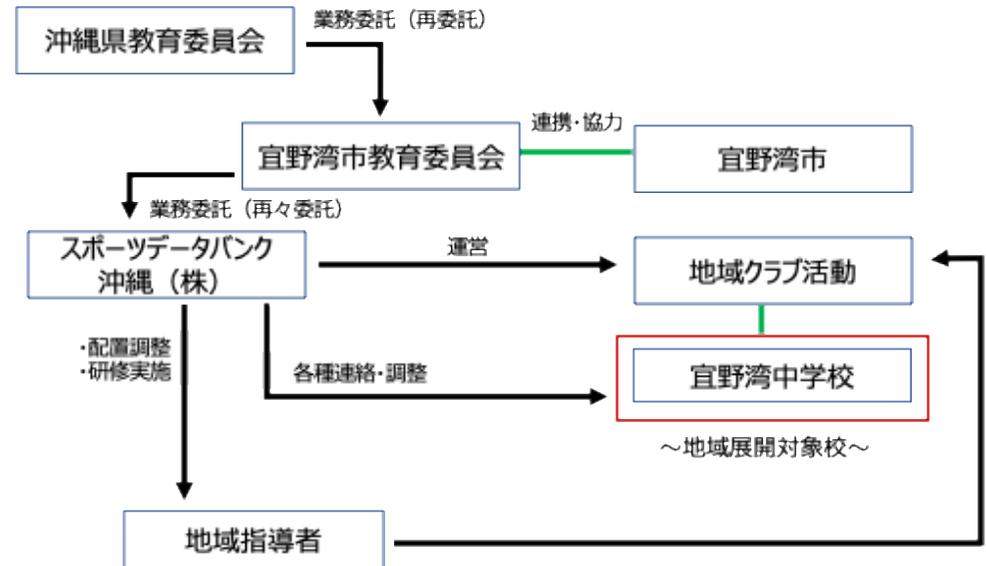
2.実証内容と成果

主な取組例

● 宜野湾市地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ダンス
運営団体名	スポーツデータバンク沖縄株式会社
期間と日数	11月12日～1月18日 (実施期間中：月3回程度)
指導者の主な属性	地域の指導者
活動場所	学校体育施設（武道場）
主な移動手段	徒歩、保護者による送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	ダンス：0円（徴収なし）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

[運営スタッフ]

➤ 統括責任者

役割：運営管理の総括的な監督を担う

➤ マネージャー・コーディネーター

役割：運営管理・進捗確認を行う（指導者調整・説明会等の実施含む）

[指導者]

役割：研修を踏まえ、適切な地域クラブ活動の運営・活動実施を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

本市では、今後の地域クラブ活動の拡充に伴い、指導者の確保が急務となっている。地域クラブ活動の指導者を配置する際には、本市が求める指導者認証基準（要件）の設定を検討していくところである。同時に、指導者の質を担保するため、指導者向けの研修制度を整えていく必要がある。その一つとして、技術指導ではない指導者にe-Learningを活用した指導者研修の拡充と定着化を図っていく。

取組の成果

本市が地域クラブ活動の指導者として配置する指導者には、種目に関わらず指導者に共通して必要とされる資質の向上を図ることを目的としたe-Learning研修を提供し受講を必須とした。パソコンやスマートフォン、タブレットから受講できることや繰り返し受講が可能な今回のe-Learning研修は、指導者に合った時間で受講することができた。1項目あたり15分程度の時間で受講できる内容であり、また何度も受講できる仕組みであったり、学習途中から再開できるなど、自分のペースで進められる点においては、過度な負担なく研修受講を実施することができた。今後、様々な属性の指導者候補に対しても質の保障に結びつく研修の一つとして位置付けることができた。

指導者の主な属性

- ✓ 地域指導者
- ✓ 海外大会出場（準優勝）
- ✓ 他地域において授業の一環でダンスレッスンの経験あり

その他研修

運営事業者が保有する指導者研修（活動中の留意事項）及び宜野湾市における地域クラブ活動の方向性や趣旨目的の理解を深める説明会を実施。



▲ e-Learningイメージ画像

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

1. 自然災害への対応	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害の基礎知識（特徴、過去の被害 など） 風水害対策について（指導中止・中断の判断 など）
2. 救急蘇生法 一次救命処置と熱中症	<ul style="list-style-type: none"> 一次救命処置（救命の可能性と時間経過 など） 熱中症（熱中症の重症度と症状・治療 など）
3. 部活動における防犯	<ul style="list-style-type: none"> 少年法と犯罪発生状況（少年法に関する知識 など） 防犯から見た体罰（体罰の定義など）
4. コンプライアンスの重要性と ハラスメントの防止	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスとは（部活動指導におけるステークホルダーの期待 など） 事例と解説（不適切行為の事例 など）
5. 子どものメンタルヘルス不調と対応	<ul style="list-style-type: none"> 思春期のメンタルヘルス（思春期の特徴） こころの不調への気づきと対応（声かけのポイント など）
6. 個人情報の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の基本（真に守ってほしい情報の理解 など） ソーシャルメディアの利用と情報漏えい（利用上の留意点 など）



確認テストの実施



各項目のe-Learning学習後にある確認テストにおいて、満点（100点）を取得することで「合格」としている。

受講者の声

Q. 地域クラブ活動に関する研修内容（e-Learning）について、特に役立った内容

全て。

→普段、このような研修を受ける機会がなかったため、各項目について再認識・学習をするには良かったように思える。

今後の課題と対応方針

「質の保障」の観点からは、e-Learning研修と合わせて、本市が今後検討・設定する指導者要件を満たすための研修の在り方や受講支援等の施策も検討を行なっていく。指導者募集に際して「量の確保」の観点からは、関係団体や地域指導者候補へ周知説明を行い、協力要請を図りながら、研修実施の充実や継続的な指導ができる環境整備を行なっていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

本市において、今後、学校体育施設が地域クラブ活動の拠点化となり得ることを見据え、地域クラブ活動のモデル実証で中学校の施設（武道場）を使用することから、地域クラブ活動における安心安全の環境整備として、スマートキーボックス及びクラウドカメラ設置・導入に向けた検討と実証を行う。

取組の成果

【スマートキーボックスの設置】

鍵本体の管理をICTツールで行う「スマートキーボックス」による検証を行った。今回使用した機器は、Wi-Fi環境がなくても操作ができるタイプであり、LTE通信サービスの範囲内で設置可能なものであった。事前に安定したLTE通信環境があるかどうかのテストを行い、本設置に進めた。

鍵本体を複製（スペアキーの作成）する必要がなく、ICTツールで鍵の管理を行うことで、複数の鍵を管理する必要がなく、また紛失の恐れを軽減することにつながるものとなった。また、学校側でも同様に扱うことから管理の一体化を目指す機会となり得た。

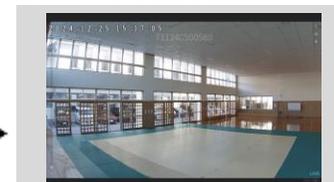
スマートキーボックス本体▶
(解除後)



【クラウドカメラの設置】

今回、検証のために設置した機器は置き型タイプの1台目つ電源（コンセント）が必須であったため、全体が映せる設置場所が限定的となったが、武道場での地域クラブ活動（ダンス）の様子を確認するには十分なものであった。今後、導入可能性に向けては、原状復帰が可能ものを必須条件とするなどの仕様及びコストのバランスを勘案した上で、検討を進めていく。また、今回は武道場を実証フィールドとしたが、学校体育館や屋外の学校グラウンドなど地域クラブの活動場所として拠点となり得る施設への導入可能性を整理していく。

クラウド上での画面▶
(地域クラブ活動 | 武道場)



今後の課題と対応方針

今後、地域クラブ活動の拠点化を目指していくために、鍵の管理方法も含め、体育施設内の使用にかかる安心の担保や安全性の向上をクラウドカメラの設置により効果を位置付けていくとともに、利用者の一元管理ができる仕組み構築も検討していきたい。また、屋内と屋外による違いの検証を行

うと同時に、今回実施した学校施設の活用等における取り組みの範囲を広げていくことを進めていく。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

地域クラブ活動のモデル実証としては、成果の評価のとおり、本市として良い事例ができたことは大きいものであった。今回、指導者の選定にあたっては学校からの紹介もあり、事前調整及び研修実施が比較的スムーズに進んだところであるが、今後、対応する種目への専門指導者を新規で確保していくためには、関係団体等との連携や地域指導者の発掘が重要になってくる。そのためには、本市の取り組みに賛同・参画いただくための方向性を示すべく、「宜野湾市における地域展開推進計画（仮称）」の策定及び周知説明が求められてくるだろう。今回、地域クラブ活動のモデル実証や学校体育施設の有効活用、実態調査アンケートの実施など、様々な検証を行なったことを踏まえ、次年度には推進計画策定に向けた検討を進めていきたい。また、今回の実証実績を活かし、地域クラブ活動の拡充を目指していく。

●成果の評価

今回、モデル実証として選定した学校及び種目は、顧問の負担軽減及び生徒への専門的な指導等の環境整備につながり、本市の取り組みとして非常に良い成果となった。これまで顧問教員に競技・指導経験がなく、専門的な指導が困難な状況であり、大会に向けたパフォーマンスやフォーメーションの組み立ては生徒同士で作っていたものであった。今回、地域クラブ活動のモデル実証の対象として、海外でも活動経験のある専門指導者が参画したことで、より完成度の高いパフォーマンスや細かな動きや表現の技術が高くなるなどの結果が得られた。保護者を説明会に指導者も同席することで、顔の分かる安心感やコミュニケーションを図ることができ、保護者の方からの信頼感も高まった傾向にある。日々の活動連絡の中においても指導者と保護者の円滑なコミュニケーションも見られ、関係者が安心して活動を行う環境ができていたと評価できる。

●今後に向けて

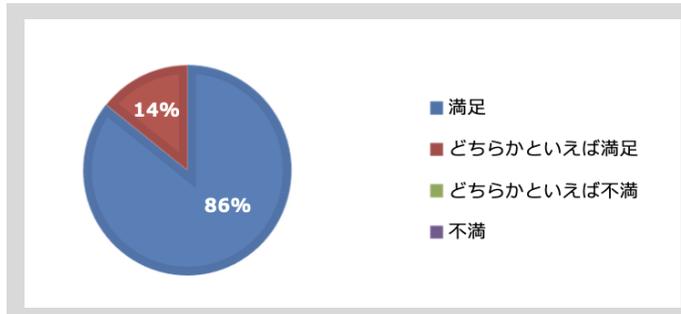
地域クラブ活動の展開には、様々なステークホルダーとの連携が必要不可欠である。そのため、市としての方向性や将来像のゴールに向けたロードマップを地域全体に示していくことが重要であり、本市における推進計画の策定に向けた検討を進めていく。令和7年度に内容の検討を行い、令和8年度には策定及び関係各所への周知を目指していく。策定検討と同時に、地域クラブ活動の一体的な環境整備に向けた学校体育施設の有効活用及び安心安全な仕組みづくりも行なっていく。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

Q. 地域クラブ活動の満足度を教えてください



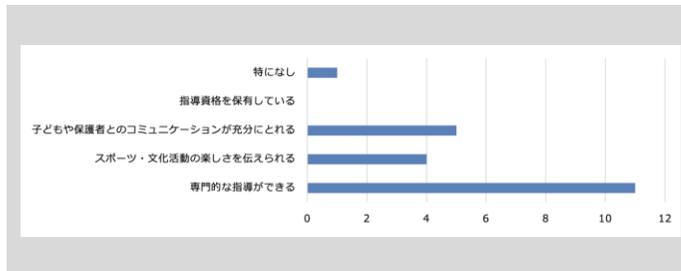
満足 | 86%
どちらかといえば満足 | 14%

Q. 次年度も休日の地域クラブを継続した場合、参加したいと思うか



・同じ活動に参加したい 86%
・同じ活動にも別の活動にも参加したい 14%

Q. 指導者に求めるものを教えてください



【上位3】

- 専門的な指導ができる
- 子どもや保護者とのコミュニケーションが充分にとれる
- スポーツ・文化活動の楽しさを伝えられる

●参加者の声

参加生徒

- ・ 学校から遠いダンススクールに通うのが厳しいので学校で専門の先生に習えるのはありがたかったです。

指導者

- ・ ダンスの楽しさを教えることができて良かった。生徒たちが自主的に考えることも多く、保護者の方も温かく見守っていただけていい経験になった。

保護者

- ・ 休日だけでも専門の先生に教えてもらえるのはありがたいです。
- ・ 子どもがいつも楽しそうに話をするので、とても良い環境でダンスができていると感じた。

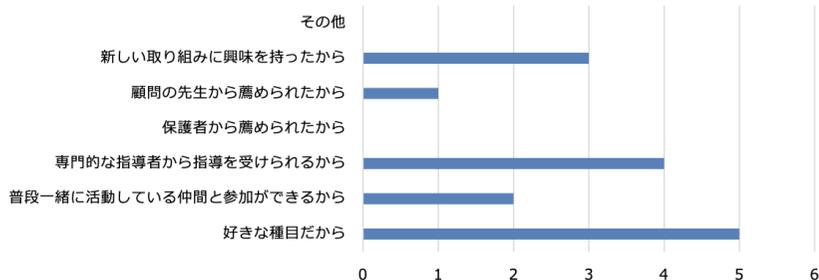
顧問教員

- ・ 経験がなかったため指導が難しかったが、専門の指導者が関わってくれたおかげで、生徒たちの練習の幅が広がったり、楽しそうな様子が伺えて、大変良い機会であった。

アンケート結果・広報資料

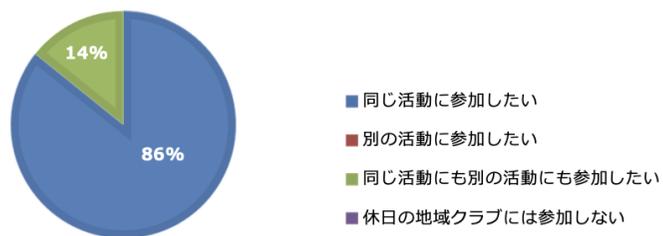
4.地域クラブに参加した理由を教えてください（複数選択可） ※必須

n = 7



7.次年度も休日の地域クラブを継続した場合、参加したいと思うか ※必須

n = 7



【他県視察対応・意見交換】

【アンケート結果 | 事業者実施（生徒アンケート一部抜粋）】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【地域クラブ活動（ダンス）の様子】



【地域クラブ活動（ダンス）の様子】



【【地域クラブ活動（ダンス）の様子】



【検討委員会の様子】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

市長部局、市教育委員会、総括コーディネーター、学校（大学含む）、市体育協会、スポーツ少年団、地域指導者（近隣地域含む）

経過

●経過

本市では、令和6年度より地域クラブ活動のモデル実証に踏み込んだところである。地域クラブ活動の運営管理や指導者研修の在り方、その他持続的な活動のための環境整備に必要な要素や課題を洗い出し、その一つ一つの課題解決に向けた対応策の検討を進めた。また、生徒・保護者・教員向けに実態調査アンケートを実施したことで、市の現在地を確認することができた。

●実施にあたって生じた課題

今回の実証では、学校調整や地域クラブ活動における運営管理の面では大きな課題はなかったが、一方で、今後、複数の地域クラブ活動を動かしていく際の財源の確保や運営管理体制の見直し、指導者の確保等が必要となる所に適切な配置を行うための事前調整・整備などを進めていく必要がある。財源確保の面に関しては、一定の受益者負担（会費）の検討も進めながら、困窮家庭への支援策も並行して方向性を定めていくことが求められる。

●今後の展開

今回の実証においては、学校及び種目の選定、指導者の確保がスムーズに進んだが、今後、複数の地域クラブ活動の拡充を目指していくにあたっては、該当する種目に対応する指導者が市内又は近隣地域にどのくらいの人数がいるか、そしてその方々が地域クラブ活動へ参画するための調整・研修実施を進めていく。また、地域クラブ活動の展開には、様々なステークホルダーとの連携が必要不可欠である。そのため、市としての方向性や将来像のゴールに向けたロードマップを地域全体に示していくことが重要である。これらをまとめた宜野湾市における推進計画の策定内容を令和7年度に検討し、令和8年度には策定及び関係各所への周知を目指していく。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ^o

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
方針・制度設計			
検討委員会の設置・運営	→		
推進計画の検討及び策定		→	
教員の兼職・兼業の規定及び運用の見直し			→
実施主体・地域クラブ運営			
実施主体（地域クラブ）認証・基準づくり		→	
地域団体等との連携・協議		→	
実施主体の認定・運営			→
指導者・研修制度			
指導者基準・条件の整理		→	
研修・認証制度の整理		→	
人材バンクの設置・募集・運営			→
財源の確保・参加費の設定			
経済困窮家庭への支援制度の検討・方針決定			→
企業版ふるさと納税含む財源確保の仕組みづくり		→	
参加費の設定・周知・受け入れ		→	
学校体育施設の有効活用			
学校施設利用方法（指定管理制度・予約システム含む）の見直し		→	
ICT活用の導入・運用		→	
学校体育施設の安心安全な仕組みづくり		→	

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

沖縄県石垣市 石垣島アスリートクラブ

実施団体名： 沖縄県石垣市 石垣島アスリートクラブ

担 当： 代表理事 新谷 敦史

電話番号： 090-8293-5939

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	228.9 km ²
人口	49,794 人 (令和7年1月現在)
公立中学校数	9 校
公立中学校生徒数	1,637 人 (令和6年5月現在)
部活動数	63 部活 (男子35,女子28)
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	石垣市立中学校部活動及びスポーツ少年団在り方検討委員会
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

- ・市内には9校の中学校、内3校は規模の大きな学校(400名以上)、6校は規模の小さな学校(50名以下)。小規模校では、部活動の種目の選択肢も限られてくる。
- ・大規模の中学校は市街地中心部に集中し、練習会場への移動は徒歩や自転車移動が可能。中心部から離れた小規模校から現在実施する地域スポーツクラブに参加するためには車で30～50分程の移動距離にある。
- ・令和元年65.8%だった部活動加入率が令和5年には53.7%に減少している。(文化系部活動を除く)凡そ800人の部活動人数に対し63の

部活動があることから、1部活単位の人数は12名程と検証でき、部活動数をもう少し絞っていくことの必要性も考えられる。

・市内にはクラブチームも多数存在するが、どのチームも部活動地域移行については興味はあるがどのように取り組んだら良いか状況がわかっていない。

・運営主体となりうる総合型地域スポーツクラブが1つあるが石垣市全体を運営するだけの規模ではなく、行政との連携により基盤を強化していく必要性がある。

R6年度沖縄県登録認定団体

沖縄県内に5団体

- ・一般社団法人 サンビスカス沖縄(沖縄市)
- ・NPO法人沖縄健康づくり協会 ダブルピース(糸満市)
- ・特定非営利活動法人 ナスク(今帰仁村)
- ・一般社団法人 琉球スポーツサポート(浦添市)
- ・一般社団法人 石垣島アスリートクラブ(石垣市)



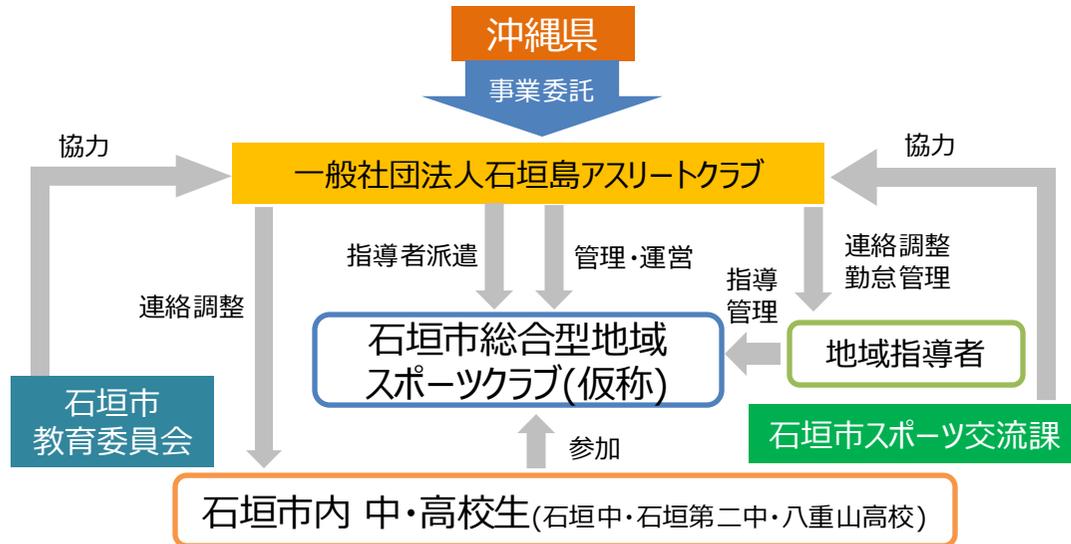
石垣市公立中学校分布



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政との連携

◎教育委員会

- ・石垣市立中学校部活動及びスポーツ少年団在り方検討委員会討委員会の設置
- ・石垣市総合型地域スポーツクラブ開催の通知
- ・中体連との連絡・調整

◎首長部局(石垣市スポーツ交流課)

- ・総合型地域スポーツクラブの体制整備・登録認証
- ・石垣島スポーツコミッションとの協力体制整備
- ・地域おこし協力隊の活用への体制整備

年間の事業スケジュール

令和6年05月	<ul style="list-style-type: none"> ・契約締結 ・関係各所との打ち合わせ ・石垣市立中学校部活動及びスポーツ少年団の在り方検討委員会委員委嘱
令和6年06月	<ul style="list-style-type: none"> ・県立学校施設開放事業申請 ・実証事業実施調整(市教委)
令和6年07月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力活用について連携調整(石垣市スポーツ交流課)
令和6年08月	
令和6年09月	<ul style="list-style-type: none"> ・石垣市総合型地域スポーツクラブ募集サイト・チラシ作成
令和6年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・利用施設調整 ・地域指導者調整
令和6年11月	<ul style="list-style-type: none"> ・石垣市総合型地域スポーツクラブ活動スタート(4コース)
令和6年12月	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックによる特別講習実施(陸上コース)
令和7年01月	
令和7年02月	<ul style="list-style-type: none"> ・実証後ヒアリング・事業完了報告

2.実証内容と成果

石垣市総合型地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

参加生徒数	22名(中学生),24名(高校生),10名(小学生)	参加学校数	2校
実施コース	陸上コース	アルティメットコース	
	サッカーコース	スポーツトレーナーコース	
全体の指導者数	8人	全体の運営スタッフ数	2人

②各コースに関すること

クラブ名	実施回数	実施時間帯	参加者	活動場所	指導者	運営スタッフ	会費	大会参加方法
陸上コース	週4回 (月/水/土/日) 合計41回実施 (内,特別講習4回)	平日 17:00~19:00 休日 16:00~18:30	高校生14名 中学生11名 小学生1名	石垣市中央運動公園陸上競技場	3人	2人	¥1,000 月額 (サブスク制) 全コース 共通 どのコースへも 参加可能	【中体連】 参加無し:地域クラブ(登録済) 【その他】 参加無し
アルティメットコース	週2回 (木/日) 合計24回実施	平日 17:00~18:30 休日 14:00~15:30	高校生5名 中学生3名 小学生8名		2人			【中体連】 参加無し 【その他】 地域クラブ:県内大会出場
サッカーコース	週1回 (土) 合計12回実施	8:00~10:00	中学生1名 体験参加10名	八重山商工高校グラウンド	2人			【中体連】 参加無し 【その他】 参加無し
スポーツトレーナーコース	週1回 (不定期) 合計14回実施 (内,特別講習6回)	不定期 2~3時間	高校生5名 中学生7名 小学生1名	石垣市中央運動公園研修室 瑞穂MSC高校教室	1人			【中体連】 参加無し 【その他】 参加無し

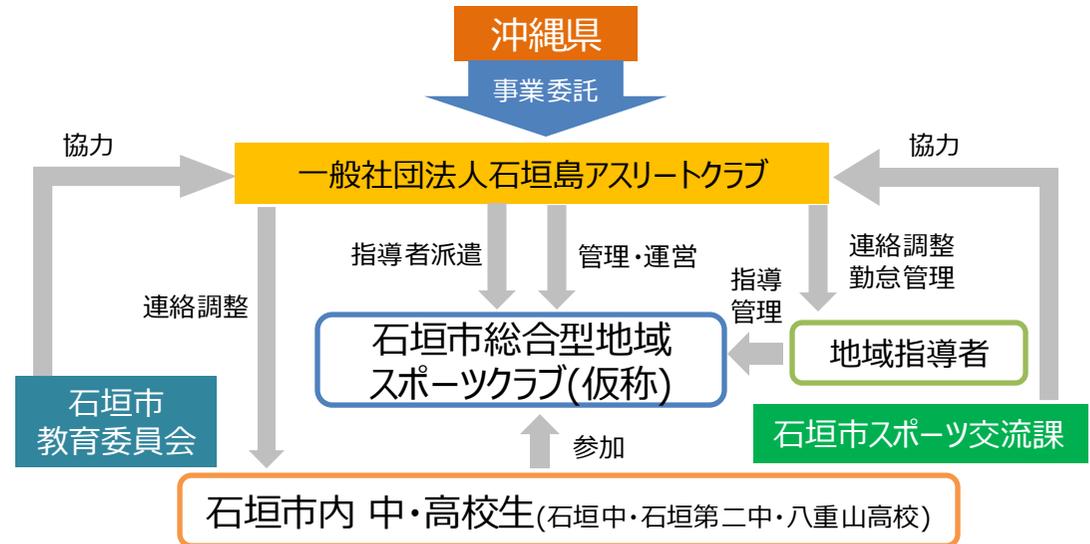
2.実証内容と成果

主な取組

●石垣市総合型地域スポーツクラブ活動概要

地域クラブ活動で実施種目	<ul style="list-style-type: none"> 陸上競技コース サッカーコース アルティメットコース スポーツトレーナーコース
運営団体名	一般社団法人石垣島アスリートクラブ
期間と日数	11月～2月上旬 <ul style="list-style-type: none"> 陸上競技 サッカー アルティメット スポーツトレーナー
指導者の主な属性	総合型地域スポーツクラブコーチ 地域の専門指導者
活動場所	<ul style="list-style-type: none"> 石垣市中央運動公園 八重山商工高校グラウンド
主な移動手段	・自転車・徒歩・保護者による送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	1,000円(月額) (4つのコース全てに参加可能)
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図(市区町村における推進体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

[運営スタッフ]

➤ 統括コーディネーター

役割：運営管理の総括的な監督を担い運営管理・進捗確認を行う
(指導者調整・説明会等の実施含む)

[指導者]

役割：研修を踏まえ、適切な地域クラブ活動の運営・活動実施を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

総括コーディネーター配置

【関係団体・市町村等との連絡調整に関する取組】

石垣市、関係団体、との連絡調整を行う。石垣市教育委員会との連携調整を行う。

石垣市立中学校部活動及びスポーツ少年団在り方検討委員会において、石垣市における地域展開に向けて、県内外の先進地域での取組状況等を報告し取組助言を行っていく。

【運営団体・実施主体の体制整備や質の確保に関する取組】

- ・石垣市スポーツ交流課との連携調整（地域おこし協力隊の活用）を行い運営体制整備に必要な人材の発掘、確保、育成の取組を行う。
- ・八重山商工高校、瑞穂MSC高等学校との連絡調整、県立高校の運動施設開放事業の活用を行う。（施設利用、中高連携取組等）
- ・石垣市における総合型地域スポーツクラブが運営団体・実施主体となり、実証事業をおこなうための、資料作成、運営を行う。

年間の事業スケジュール

日付	活動内容	日付	活動内容
5/14	運動部活動の地域移行に関する周知説明会 令和5年度地域スポーツクラブ活動整備事業における成果報告	10/30 11/10	★石垣市総合型地域スポーツクラブ 活動スタート トレーナーコース特別講習会(パリオリンピック日本代表トレーナーによる講演&講習会)
5/24	第1回石垣市立中学校部活動及びスポーツ少年団在り方検討委員会 委員委嘱状交付式及び第1回会議	11/28	第2回石垣市立中学校部活動及びスポーツ少年団在り方検討委員会 実証事業実施中間報告
6/13	地域スポーツクラブ活動におけるトレーナーの活用について 日本福祉大学 スポーツ科学部 三井教授と打ち合わせ	12/20	沖縄県中体連陸上専門部会議にて沖縄県における部活動地域展開についての説明報告
6/20	瑞穂MSC高等学校 地域クラブ活動連携会議	2/7	第3回沖縄県運動部活動の地域移行に関する検討会議 令和6年度実証事業・樹点地域の政策課題の成果報告
7/16 7/23	地域おこし協力隊の活用についての話し合い(石垣市,石垣市スポーツ交流課)	2/18	第3回石垣市立中学校部活動及びスポーツ少年団在り方検討委員会 今年度の実証事業実施報告、来年度の実施計画報告
7/25	沖縄県スポーツ協会担当者と総合型地域スポーツクラブ活動についての視察会議 部活動地域移行と地域スポーツクラブ活動について情報交換	11月～ 2月	特別講習会のコーディネート(陸上コース4回)(アルティメットコース3回)(トレーナーコース6回) ・パリオリンピック代表陸上選手(100m)、・北京オリンピック代表陸上選手(走幅跳) ・地元出身実業団選手による講習会、・理学療法士によるトレーナー講習会 ・パリオリンピック陸上日本代表チームトレーナー・日本福祉大学スポーツ科学部教授 ・日本フライングディスク協会、東京都アルティメットクラブチームによる講習会
10/18	石垣市施設管理課 公共施設管理担当者と地域スポーツクラブ活動における公共運動施設の 使用についての話し合い		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組の成果

【関係団体・市町村等との連絡調整に関する取組】

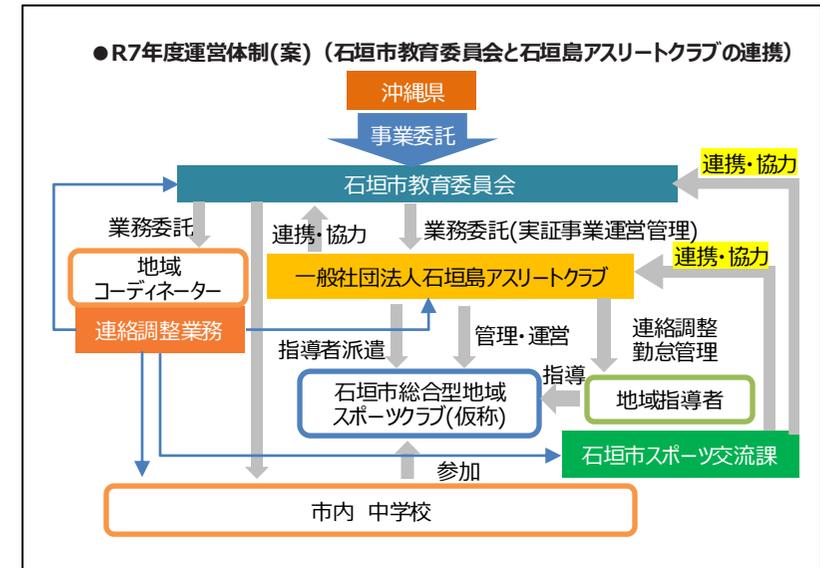
・石垣市教育委員会との協議連絡調整の結果、次年度の取組を右図のように、総合型地域スポーツクラブが、部活動地域連携の運営管理団体としての実証事業を行えるよう、仕組みづくりができた。

・石垣市立中学校部活動及びスポーツ少年団在り方検討委員会において、県内外多くの先進事例等を報告し、今後の石垣市の地域連携へ向けての取組の方向性を検討するためのアイデアを提供することができた。

【運営団体・実施主体の体制整備や質の確保に関する取組】

・瑞穂MSC高等学校の学校施設を利用することができた。ただし、今後、利用申請方法や利用時間等についての制度設計をしっかりと整える必要があるため、次年度以降の課題も残った。

・県立高校の運動施設開放事業については今年度も活用することができた。
・石垣市における総合型地域スポーツクラブが運営団体・実施主体となり、実証事業をおこなうための、資料作成、仕組みづくり、運営方法の検証を行うことができた。



今後の課題と対応方針

【運営団体・実施主体の体制整備や質の確保に関する取組】

・石垣市スポーツ交流課との連携調整において進めてきた、地域おこし協力隊の活用について、申請最終段階において石垣市における財政状況の判断により、次年度の地域おこし協力隊の採用を見送ることとなってしまった。総務省から支給される、地域おこし協力隊の活動費となる「特別地方交付税」の活用方法について、改めて石垣市及び総務省と協議を進め、有効的な活用方法について改めて検証を行うことが必要となった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

【人材の発掘マッチング・配置に関する取組】・【研修資格取得促進に関する取組】
・石垣市スポーツ交流課、石垣島スポーツコミッションとも連携し、石垣島へ合宿で来島するアスリートの活用を行った。

取組の成果

合宿スケジュール決定後、地域スポーツ活動への協力を依頼、選手の合宿スケジュールの負担にならないよう、実施内容及びスケジュールを調整し今年度は、4回の講習会を実施することができた。講習会へは地域スポーツクラブへの参加者、高校生だけでなく、指導者も参加し、指導資質の向上につながる講習会を実施することができた。

開催日	アスリート名	競技種目,実績等	実施内容
12/16	長谷川大悟	三段跳,リオオリンピック日本代表	走幅跳練習会実施
12/18	東田旺洋	100m,パリオリンピック日本代表	スプリントクリニック実施
1/4	下地駿麻	100m,全日本実業団選手権 4x100m優勝	トレーナー&アスリート連携陸上教室実施
1/31	長谷川大悟	三段跳,リオオリンピック日本代表	走幅跳練習会実施



今後の課題と対応方針

R5年に石垣島スポーツコミッションも設立され、石垣島へ来島するトップアスリートたちの合宿の一元管理に向けての取組も行い始めている。それを活用し、トップアスリートの地域貢献活動に結びつけて、講習会実施の協力依頼を行っていく調整が必要。ただし、合宿のスケジュールが決定するのは、来島の2～3か月前が多く、計画的の事業の実施計画を立てるのが難しいことが課題となる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

【世代間交流に関する取組】

・中-高連携での合同練習の実施。高校陸上部と総合型地域スポーツクラブの陸上クラスが合同で活動を行い、地域スポーツクラブとしての受け皿となることを実証の実施を行う。

取組の成果

- ・八重山高校陸上部との連携により、3ヶ月間で11回の中高連携の合同練習会を実施することができた。練習へは地域スポーツクラブのコーチ、地域指導者、高校陸上部の監督・コーチが関わることができ充実した指導体制を整えることができた。
- ・中学生は高校生から学ぶことで、特に中学3年生は卒業後も高校へ行って一緒に陸上がやりたい。と意識付けることもできた。
- ・中学までは総合型地域スポーツで陸上を学び、高校へ進学し陸上部で活動する選手からは、これまで受けてきた指導を高校へ行って、継続して受けられることはとても嬉しいという声を聞くことができた。



No	実施日	曜日	会場	練習時間	指導者	参加(中)	参加(高)	合計(学生)	
1	10月30日	水	陸上競技場	17:00-19:00	2	7	7	14	中高連携
2	11月2日	土	陸上競技場	16:00-18:30	1	7		7	
3	11月3日	日	陸上競技場	9:00-11:30	2	7		7	
4	11月6日	水	陸上競技場	17:00-19:00	3	7	12	19	中高連携
5	11月9日	土	陸上競技場	16:00-18:30	1	11		11	
6	11月10日	日	陸上競技場	16:00-18:30	2	4		4	
7	11月13日	水	陸上競技場	17:00-19:00	1	7	14	21	中高連携
8	11月16日	土	陸上競技場	16:00-18:30	1	7		7	
9	11月17日	日	陸上競技場	16:00-18:30	2	2		2	
10	11月20日	水	陸上競技場	17:00-19:00	2	10	10	20	中高連携
11	11月23日	土	陸上競技場	16:00-18:30	1	6		6	
12	11月24日	日	陸上競技場	17:00-19:00	1	10		10	
13	11月27日	水	陸上競技場	17:00-19:00	1	10	0	10	中高連携
14	11月30日	土	陸上競技場	16:00-18:30	1	8		8	
15	12月1日	日	陸上競技場	16:00-18:30	2	3		3	
16	12月4日	水	陸上競技場	17:00-19:00	1	10		10	
17	12月7日	土	陸上競技場	16:00-18:30	1	7		7	
18	12月8日	日	陸上競技場	16:00-18:30	2	5		5	
19	12月11日	水	陸上競技場	17:00-19:00	1	8	12	20	中高連携
20	12月14日	土	陸上競技場	9:00-11:30	1	6		6	
21	12月15日	日	陸上競技場	16:00-18:30	2	2		2	
22	12月16日	月	陸上競技場	17:00-19:00	2	6	4	10	中高連携(特別)
23	12月18日	水	陸上競技場	17:00-19:00	2	9	9	18	中高連携(特別)
24	12月21日	土	陸上競技場	17:00-19:00	1	6		6	
25	12月22日	日	陸上競技場	16:00-18:30	2	3		3	
26	12月25日	水	陸上競技場	17:00-19:00	1	5	8	13	中高連携
27	12月28日	土	坂道コース	16:00-18:30	2	7		7	
28	12月29日	日	マエザトビーチ	11:00-12:00	1	4		4	
29	1月4日	土	陸上競技場	13:30-18:00	2	9	3	12	中高連携(特別)
30	1月5日	日	陸上競技場	16:00-18:30	2	2		2	
31	1月8日	水	陸上競技場	17:00-19:00	1	11		11	
32	1月11日	土	陸上競技場	15:00-17:30	1	4		4	
33	1月12日	日	陸上競技場	16:00-18:30	2	4		4	
34	1月15日	水	陸上競技場	17:00-19:00	1	5		5	
35	1月18日	土	陸上競技場	16:00-18:30	1	4		4	
36	1月19日	日	陸上競技場	16:00-18:30	1	4		4	
37	1月22日	水	陸上競技場	17:00-19:00	1	4		4	
38	1月25日	土	陸上競技場	16:00-18:30	1	7		7	
39	1月26日	日	陸上競技場	16:00-18:30	2	3		3	
40	1月29日	水	陸上競技場	17:00-19:00	1	8		4	
41	1月31日	金	陸上競技場	17:00-19:00	1	1	1	2	中高連携(特別)

今後の課題と対応方針

・高校陸上部では年間を通して専門的な指導を行うにあたり、1月～8月までのシーズン中はやはり、高校生のみで専門的な指導を行いたいという、監督コーチからの提案もあり、現時点では期間限定の世代間交流の取り組みとなった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組事項

【世代間交流に関する取組】

・中-高連携での合同練習の実施。高校サッカー部と総合型地域スポーツクラブの小学生サッカーチームが合同で活動を行い、そこに地域スポーツクラブのサッカーコースとして中学生を受け入れて活動を行う実証を実施する。

取組の成果

・八重山商工高校サッカー部との連携により、地域スポーツクラブのサッカーコース中学生と総合型地域スポーツクラブ小学生サッカーチームBREDDAとの世代間交流によるサッカー練習会を週1回実施の計画で取り組んだ。しかし、参加者が集まらず、中学校サッカー部へ再度呼びかけ、1つの中学校へ直接伺い練習指導を実施するも、その後地域スポーツクラブ活動への参加には至らなかった。

・活動は中学生の参加が無かったため、高校生と地域スポーツクラブに参加する小学生が県立学校体育施設開放事業で借用している会場で練習会を行うこととなった。



左写真は11/19に大浜中学校で実施した、体験練習会の様子。

参加者10名、指導には喜んでくれたが活動場所を移動して学校を離れた地域スポーツクラブ活動に、若干難色を示していたという、地域指導者からの声があった。

石垣市総合型地域スポーツクラブ サッカーコース 活動実証事業活動詳細					
No	活動日	曜日	練習時間	指導者	参加者数
1	11/2	土	7:45-10:45	2	1
2	11/9	土	7:45-10:45	1	0
3	11/16	土	7:45-10:45	2	0
4	11/19	火	16:45-18:45	1	10
5	11/30	土	7:45-10:45	1	0
6	12/8	日	7:45-10:45	1	0
7	12/14	土	7:45-10:45	1	0
8	12/21	土	7:45-10:45	1	0
9	12/28	土	7:45-10:45	1	0
10	1/11	土	7:45-10:45	1	0
11	1/18	土	7:45-10:45	1	0
12	1/25	土	7:45-10:45	1	0

今後の課題と対応方針

・担当地域指導者より、学校部活動の指導者に確認したところ、11月～1月は現時点ではまだ、中体連の新人大会への取組もあるため、やはり学校単位での練習活動を行いたいという回答があり、地域スポーツクラブ活動への参加には至らなかったという結果となった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実③

取組事項

【世代間交流に関する取組】

- ・アルティメットコースではジュニアからシニアまで多世代で取り組むことも配慮して、活動時間を1時間30分として活動を行う。
 多世代で一緒に出場できる大会へ参加する。

取組の成果

・アルティメットコースへは小学生・中学生・高校生と多世代の参加者が集まり一緒に活動することができた。参加者はアルティメット以外に陸上競技、サッカー、野球部、テニス部に所属している選手、また他に運動部活動はやっていないが、勉強との両立をするため、週に1～2回ほどの運動運動をしたかったという生徒が参加した。

・重点地域の政策課題への取組とも並行して、多世代で取り組むスポーツで大会に出場することができた。「沖縄オープンアルティメット大会」へ小学生から大学生までが1つのチームを編成して出場した。



今後の課題と対応方針

- ・小学生から高校生まで一緒に活動し、高校生が率先して、小中学生をまとめて活動する様子が見られるようになった。参加者からは2月以降も継続して活動を実施したいという声があがった。
- ・地域スポーツクラブとして多世代で1つの大会に参加できたが、年間に1大会でなく、他にも参加できる大会を探す、もしくは創り出していくことも必要であると感じた。

石垣市総合型地域スポーツクラブ アルティメットコース活動実証事業活動詳細

No	活動日	曜日	練習時間	会場	指導者	参加者数
1	11/3	日	9:30-11:00	陸上競技場	1	9
2	11/7	木	17:00-18:30	陸上競技場	1	6
3	11/10	日	14:30-16:00	陸上競技場	1	12
4	11/14	木	17:00-18:30	陸上競技場	1	6
5	11/17	日	14:30-16:00	陸上競技場	1	11
6	11/24	日	14:30-16:00	陸上競技場	1	8
7	11/28	木	17:00-18:30	陸上競技場	2	9
8	11/30	土	13:00-15:00	真栄里公園	2	30
9	12/1	日	14:30-16:00	陸上競技場	1	9
10	12/5	木	17:00-18:30	陸上競技場	1	11
11	12/8	日	14:00-15:30	陸上競技場	1	11
12	12/12	木	17:00-18:30	真栄里公園	1	11
13	12/19	木	17:00-18:30	プール前広場	1	9
14	12/22	日	14:00-15:30	陸上競技場	1	13
15	12/27	金	15:00-16:30	プール前広場	1	7
16	12/29	日	14:00-15:30	真栄里公園	1	10
17	1/5	日	14:00-15:30	真栄里公園	1	11
18	1/9	木	17:00-18:30	真栄里公園	1	7
19	1/12	日	16:30-18:00	真栄里公園	1	8
20	1/16	木	17:00-18:30	プール前広場	1	8
21	1/19	日	14:00-15:30	真栄里公園	1	10
22	1/23	木	17:00-18:30	プール前広場	1	6
23	1/26	日	9:00-10:30	真栄里公園	1	10
24	1/30	木	13:00-15:00	真栄里公園	1	8

2.実証内容と成果

- ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
- イ：指導者の質の保障・量の確保
- ウ：関係団体・分野との連携強化
- エ：面的・広域的な取組

- オ：内容の充実
- カ：参加費用負担の支援等
- キ：学校施設の活用等
- ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実④

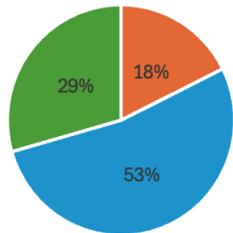
取組事項

【複数種目やシーズン制の取組】

・現在活動しているスポーツ以外を週末に活動できる部活動として、総合型地域スポーツクラブ内に自由に参加できる4つのコースを設置、月の活動費を一律のサブスク制にすることで、自分の活動したい種目や曜日を選んで参加できるように取り組んだ。今年度は陸上コース、サッカーコース、アルティメットコース、スポーツトレーナーコースを設置した。

取組の成果

	1種目	2種目	3種目
活動種目数	6	18	10



■ 1種目 ■ 2種目 ■ 3種目

・スポーツトレーナーコースの設置においては、これまで触れることができなかった、講習内容が多く参加者はその活動にとっても満足してくれた。

・4つのコースを合わせて小学生から高校生まで全34名の参加者の地域スポーツクラブ及び部活動への参加状況を確認。左の図のように全体の82%が複数種目のスポーツ活動に取り組むことができた。

・地域スポーツクラブ活動ということで、別に各学校での部活動に参加している生徒も活動に参加することができた。

今後の課題と対応方針

・スポーツ活動を行う場所を提供し参加を呼びかけるだけでなく、複数種目への取組の効果や必要性等を伝える取組を行うことも必要であると感じた。

R6年度 総合型地域スポーツクラブが運営する地域部活動をテーマに4つのコースで実証事業を行います!

陸上競技コース 対象：市内の中学生・高校生 活動場所：陸上競技場 活動日：土曜日/日曜日のいずれか 活動時間 16:00~18:00 指導者 石垣島アリートクラブ コーチSTAFF 市内 地域指導者(登録制)	サッカーコース 対象：市内の中学生・高校生 活動場所：八重山商工グラウンド 活動日：土曜日/日曜日のいずれか 活動時間 都度変更有り 指導者 石垣島アリートクラブ コーチSTAFF、八重山商工高校サッカー部監督 市内 地域指導者(登録制)
アルティメットコース 対象：市内の中学生・高校生 活動場所：陸上競技場 活動日：土曜日/日曜日のいずれか 活動時間 15:00~16:30 指導者 石垣島アリートクラブ コーチSTAFF 市内 地域指導者(登録制)	スポーツトレーナーコース 対象：市内の中学生・高校生 活動場所：瑞穂MSC高校 活動日：土曜日/日曜日のいずれか 活動時間 都度変更有り 指導者 石垣島アリートクラブ コーチSTAFF、市内 鍼灸整体師(登録制) 瑞穂MSC高等学校(協力)、日本福祉大学 スポーツ学部(協力)

活動費 1ヶ月 **1,000円** (中学生) / **1,850円** (高校生) 保険代 年間 **800円** (中学生) / **1,850円** (高校生) その他経費 用具代、施設使用料等は今年度は実証事業費を充当して活動しますので個人負担は行いません。次年度以降の活動継続のために、どの程度の活動費用が必要になるか、実証事業を行うことも目的です。

R6年度 石垣市地域スポーツクラブ 活動者名簿

参加者	性別	学年	年齢	種目	地域スポーツクラブ活動		部活動(その他クラブ)	活動種目数
					地域スポーツクラブ	部活動(その他クラブ)		
参加者 1	女	中学	1年	陸上			バスケット	2
参加者 2	男	中学	1年	陸上			トレーナー	2
参加者 3	女	中学	1年	陸上			トレーナー	2
参加者 4	女	中学	2年	陸上			トレーナー 陸上部	3
参加者 5	女	中学	2年	陸上			トレーナー バスケ部	3
参加者 6	男	中学	2年	陸上			トレーナー 陸上クラブ	3
参加者 7	男	中学	2年	陸上			トレーナー ボクシングクラブ	2
参加者 8	男	中学	2年	陸上			ボクシングクラブ	2
参加者 9	男	中学	3年	陸上			陸上クラブ	2
参加者 10	女	中学	3年	陸上			トレーナー 陸上クラブ	3
参加者 11	男	中学	3年	陸上			トレーナー 陸上クラブ	3
参加者 12	男	中学	1年		サッカー		サッカー部	2
参加者 13	男	中学	1年		アルティメット		ソフトテニス部	2
参加者 14	男	中学	1年		アルティメット		ソフトテニス部	2
参加者 15	女	中学	1年		アルティメット		陸上部	2
参加者 16	女	高校	1年	陸上			陸上クラブ	3
参加者 17	男	高校	1年		アルティメット		陸上部	2
参加者 18	男	高校	2年		アルティメット			1
参加者 19	男	高校	2年		アルティメット			1
参加者 20	男	高校	2年		アルティメット			1
参加者 21	男	高校	1年	陸上			トレーナー 柔道クラブ	3
参加者 22	女	高校	2年	陸上			トレーナー 陸上部	3
参加者 23	女	高校	2年	陸上			トレーナー 陸上部	3
参加者 24	男	高校	2年				トレーナー バドミントン部	2
参加者 25	女	高校	2年				トレーナー バドミントン部	2
参加者 26	男	小学	4年		アルティメット			1
参加者 27	男	小学	4年		アルティメット		陸上クラブ	2
参加者 28	男	小学	5年		アルティメット		野球クラブ	2
参加者 29	女	小学	6年	陸上			トレーナー 陸上クラブ	3
参加者 30	男	小学	6年		アルティメット		陸上クラブ	2
参加者 31	男	小学	6年		アルティメット		陸上クラブ	2
参加者 32	男	小学	6年		アルティメット		陸上クラブ	2
参加者 33	男	小学	6年		アルティメット			1
参加者 34	女	小学	6年		アルティメット			1

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

【学校施設の効果的な活用や管理方法に関する取組】

- ・県立学校体育施設開放事業を活用して、県立高等学校の施設での地域スポーツ活動を実施する。
- ・石垣市に本校を置く、瑞穂MSC高等学校との連携により、学校施設を地域スポーツクラブ活動に利用する。

取組の成果

【八重山商工高校高等学校グラウンドの活用】

・申請により令和5年度に引き続き令和6年度も八重山商工高校のグラウンドを総合型地域スポーツクラブで使用許可を受けて活用することができた。

【瑞穂MSC高等学校の教室及びホールの活用】

トレーナーコース特別講座において2回施設を利用させていただくことができた。



(図1号様式)

県立学校体育施設開放事業利用団体登録申請書	
年 月 日	
申請者： 所在地 石垣市字平得189	
団体名 一般社団法人石垣島アスリートクラブ	
代表者名 新谷 敦史 印	
下記のとおり開放事業利用団体として登録したいので申請いたします。	
団体名	一般社団法人 石垣島アスリートクラブ
利用の目的	中学校運動部活動地域移行に向けての取り組みを中高連携で行い、八重山商工グラウンドを活用し、サッカー地域クラブ活動の実証事業を行うため。
利用場所	利用校 神郷県立八重山商工高等学校 利用場所 グラウンド
スポーツの種類	サッカー
氏名・生年月日	氏名 新谷 敦史
職 業	職業 中学校サッカーコーチ 勤務先 一般社団法人石垣島アスリートクラブ
住 所	住所 〒907-0003 石垣市字平得189
団 員	男 20人 女 10人 合計 30人 (氏名・住所・年齢を明記した一覧表を添付する。)
使用面積	㎡
備考	
受付年月日	年 月 日
登録番号	登録番号 第 号

第1号様式

学校施設使用許可申請書	
令和 6 年 5 月 30 日	
申請校	神郷県立八重山商工高等学校
校長	殿
住所	神郷県石垣市字平得189
所属団体	一般社団法人石垣島アスリートクラブ
及び代表者	代表理事 新谷 敦史 印
申請者	新谷 敦史
(電話番号)	
次のとおり、学校施設の使用を許可くださるよう申請します。	
学 校 名	神郷県立八重山商工高等学校
使 用 場 所	グラウンド
使 用 目 的	中学校運動部活動地域移行に向けての取り組みを中高連携で行い、八重山商工グラウンドを活用し、サッカー地域クラブ活動の実証事業を行うため。
使 用 日 時	令和 6 年 6 月 1 日 午前・午後 時 分から 令和 7 年 3 月 31 日 午前・午後 時 分まで
使 用 上 の 取 締 及 び 管 理 方 法	貴校の管理規定に従い、適正に使用し管理します。
集 合 人 数 及 び 対 象	八重山郡内の中学生・高校生 30名
特 別 設 備 等	
使 用 料	円 取 納 令 和 年 月 日
※は記入しないでください	
校長	副校長 事務長 事務係

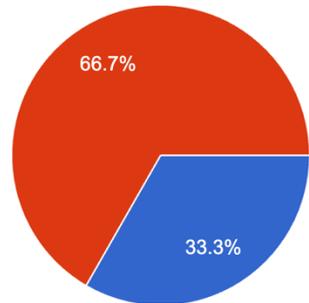
今後の課題と対応方針

昨年度に引き続き、県立学校体育施設開放事業を活用、現時点では利用において課題点等も無く、有効に活用できている。また、今年度初めて瑞穂MSC高等学校の学校施設を地域に開放していただくという取組を学校側との協議により実施できた。現時点では正式な契約等を結んで利用していない為、その都度、利用日、時間等を学校へ報告し、学校で使用についての許可をいただき利用する形であった。そのため、学校行事との重複のため利用できない日や休日の利用については職員が対応できず、利用できない日などが生じてしまった。

アンケート結果・参加者の声

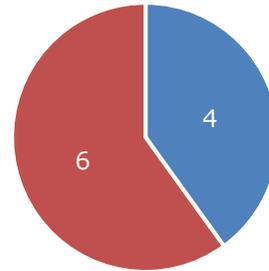
●アンケート結果

Q.複数種目のスポーツを実施してみたいですか？（学生の回答）



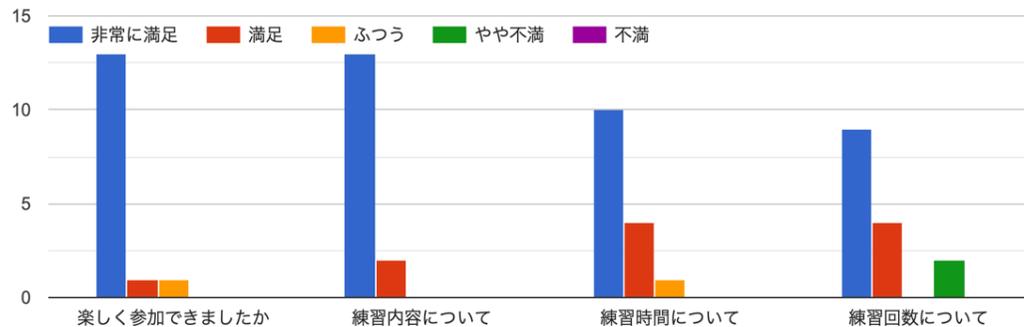
● 1種目のスポーツをやりたい
● 2種目以上のスポーツをやりたい

Q.複数種目のスポーツを実施してみたいですか？（保護者の回答）



■ 1種目のスポーツをやりたい
■ 2種目以上のスポーツをやりたい

Q.地域スポーツクラブでの活動についていかがでしたか？（学生の回答）



R6地域スポーツクラブ活動アンケート(回答)より抜粋

●参加者の声

中学2年生（トレーナーコース）

実技講習会では、アイシングやストレッチ、トレーニング、自分では意識しなかった呼吸の事など、今後の練習や大会で活用していきたい事を楽しみながら沢山学べてとてもいい機会になりました。

中学3年生（トレーナーコース）

オリンピックでの選手との関わりや、選手がどのように過ごしているのかが知れて、私も将来このようにサポート役として大会について行きたいと思いました。体験談を聞くことで、将来自分がなりたい像のイメージができて良かったです。

指導者（トレーナーコース）

受ける生徒への宣伝が必要かと思いました。部活では習わない事や人(他部活)とのコミュニケーションなどの大事さが必要ですが、受ける生徒が少ないと活気が下がるかと思えます。

指導者（陸上コース）

指導者としてのスキルアップの講習会等もスケジュールが事前をわかれば、参加していきたい。オンラインで受講可能な資格は取得していきたい。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和5年度はアカデミー形式で、陸上競技、サッカーにおいてそれぞれ、参加者を募る形で実証を実施したが、今年度は総合型地域スポーツクラブが運営管理団体となり、複数種目の競技にマルチに参加できる形体の実証を行い検証した。

総合型地域スポーツの特性を活かして、複数の種目を実施できる環境を整え、多くの学生が2種目以上のスポーツ活動に取り組むことができた。

総合型地域スポーツクラブが運営主体になるために必要なことを検証する実証を行ってきたが、現時点では教育委員会、学校現場との調整不足が大きな課題となってしまう。次年度は教育委員会と連携しての実践に向けて取り組むことができるよう準備もできたため、これまでの経験を活かし、今後、実証期間に縛られることなく、1年間通した、地域スポーツクラブ活動を自走化していける仕組みづくりを行い、財源確保や参加費の在り方にも具体的な内容を検討していく。

地域の特性を活かして、合宿に来島するトップアスリートの活用方法についても、再度検証を深めていきたい。

●成果の評価

[総括コーディネーターの活動]

・沖縄県、石垣市行政との積極的な調整を行い、次年度は石垣市として地域展開に向けて実証を進めていく事を決定することができた。また、総合型地域スポーツクラブが、部活動地域連携の運営管理団体としての実証事業を行えるよう、仕組みづくりを行った。石垣市立中学校部活動及びスポーツ少年団在り方検討委員会の委員を委嘱され県内外多くの先進事例等を報告し、今後の石垣市の地域連携へ向けての取組の方向性を検討するためのアイデアを提供することができた。

【運営管理団体としての活動】

総合型地域スポーツクラブとして、多世代での取組を軸に小学生から高校生まで多くの学生がスポーツを楽しむ場所を提供することができた。ただし、その活動状況をまだ参加できていない学校や生徒・歩保護者へ普及する点において取組に課題が残った。指導者の確保において、地域の人材、石垣市へ来島するアスリート等、有効的に活用することができた。

●今後に向けて

石垣市全体の地域展開を担うことができるような、管理運営団体の育成、実施団体となるクラブの認証制度、参加費や活動費捻出のための財源確保や自走化に向けての制度設計等、これまでの実証事業の経験を活かし、次年度から石垣市における地域スポーツ活動の取組を実証していくことになる。

そのために、地域一体となり、子どもたちの継続的なスポーツ活動の実現に向けて取り組んでいくことが大切となる。

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



陸上コース 中高連携 合同練習



陸上コース 中高連携 合同練習



陸上コース パーソナルトレーナーによる
神経伝達系トレーニング



パーソナルトレーナーによる
カラダの動かし方確認



北京オリンピック代表選手による
走幅跳 講習会



郷土の先輩 実業団選手による
トレーニング指導

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



パリオリンピック代表トレーナーによる
カラダの硬さチェック



正しいアイシングの実技講習



鍼灸師による骨格見本をつかった
筋肉のつき方確認



理学療法士による
ストレッチ講習



日本福祉大学スポーツ科学部教授による
キネシオテーピング実践講習



パリオリンピック代表トレーナーによる
ウォーミングアップ講習

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



小学生から高校生まで
一緒に練習するアルティメットコース



体格差や体力差があっても
それをみんなで補い合ってプレーする



地域スポーツクラブで出場した大会で
ゴールして喜ぶ小学生



こどもから大人まで一緒に活動できる
アルティメット



公共施設の陸上競技場を
メイン会場として練習を実施



競技場利用できない場合も
このような広場があれば練習可能

2.実証内容と成果③

広報資料

地域スポーツクラブ開始のチラシを作成、教育委員会を通して市内全中学生に配布した。

誰でも参加受付や活動スケジュールカレンダーの確認ができるよう確認できるよう、ホームページを制作した。

参考資料



地域部活動に 参加してみませんか?
新メジャー大募集
陸上競技・サッカー・アルティメット
スポーツトレーナー 4部門を専攻します!!

みんなのスポーツへの想いを支えます
学校部活動から地域部活動へ! 思いがけず広がっています。
空想でも地域部活動は必要不可欠なものです。地域部活動を支える、
地域スポーツクラブでスポーツの楽しさを学生に伝えます。
専攻領域: サッカー・アルティメット、スポーツトレーナーの部門
各部門の活動に関する詳細は募集要項をご覧ください。

090-8293-5939
石垣島アスリートクラブ



音・活・動
BEST 1

部活動地域移行とは?
学校教育の一環として取り組まれてきた部活動は、近年は少子化による部活動減少、部活動が担っている指導者の確保困難、教員の負担増大等を迫るにあらう。部活動指導の在り方が見直されるも待っています。
スポーツは令和3年~7年の3か年改革推進期間と定め、少子化の中でも子どもたちが生誕にむけ、スポーツを楽しむ機会を確保し、学校の働き改革を推進し、学校教育の質も向上させる。地域の持続可能なスポーツ環境を整備するとしています。

R6年度 総合型地域スポーツクラブが運営する地域部活動をテーマに4つのコースで実証事業を行います!

陸上競技コース 活動場所: 陸上競技場 活動日: 土曜日/日曜日のいずれか 活動時間: 16:00~18:00 指導者: 石垣県アスリートクラブ コーチSTAFF 市内 地域指導者(登録制)	サッカーコース 活動場所: 八重山精工グラウンド 活動日: 土曜日/日曜日のいずれか 活動時間: 都度変更あり 指導者: 石垣県アスリートクラブ コーチSTAFF、八重山精工高校サッカー部監督 市内 地域指導者(登録制)
アルティメットコース 活動場所: 陸上競技場 活動日: 土曜日/日曜日のいずれか 活動時間: 16:00~18:00 指導者: 石垣県アスリートクラブ コーチSTAFF 市内 地域指導者(登録制)	ラグビーフットボールコース 活動場所: 陸上競技場 活動日: 土曜日/日曜日のいずれか 活動時間: 都度変更あり 指導者: 石垣県アスリートクラブ コーチSTAFF、市内 総合運動場(登録制) 石垣県立高等学校(協力)、日本福祉大学 スポーツ指導者(協力)

1,000円(小学生) / 800円(中学生) / 1,850円(高校生)

よくある質問
学校の部活に入っても活動できますか? 平日は活動しないですか? 大会には出場できますか? 複数のコースを受けるとは可能ですか?

参加のお申し込み・詳細はホームページをご覧ください

090-8293-5939
TEL 090-8293-5939 石垣島アスリート



地域部活動に 参加してみませんか?
新メジャー大募集
陸上競技・サッカー・アルティメット
スポーツトレーナー 4部門を専攻します!!

みんなのスポーツへの想いを支えます
学校部活動から地域部活動へ! 思いがけず広がっています。
空想でも地域部活動は必要不可欠なものです。地域部活動を支える、
地域スポーツクラブでスポーツの楽しさを学生に伝えます。
専攻領域: サッカー・アルティメット、スポーツトレーナーの部門
各部門の活動に関する詳細は募集要項をご覧ください。

090-8293-5939
石垣島アスリートクラブ



石垣島アスリートクラブ ホームページ

11月10日(日) 特別企画
「陸上競技・サッカー・アルティメット」
スポーツトレーナーの部」

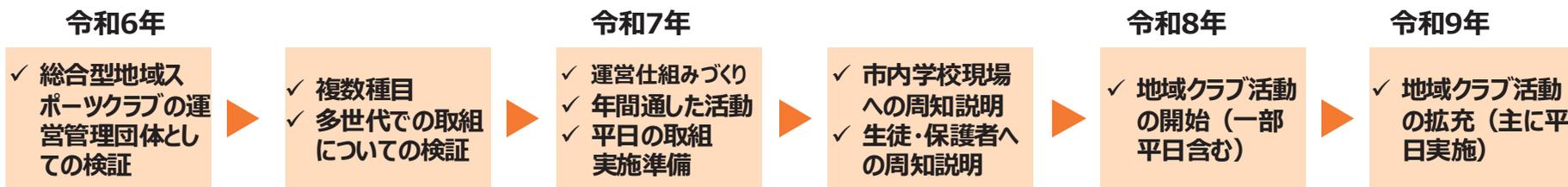
090-8293-5939
石垣島アスリートクラブ

【生徒への参加啓発チラシ】

【ホームページ】

<https://npoi.ac.rdy.jp/bukatsu.html>

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

教育委員会(学校教育課、学務課施設係)、市長部局(石垣市スポーツ交流課、財政課)、総括コーディネーター、学校、地域指導者

●経過

令和5年4月に一般社団法人石垣島アスリートクラブが「地域スポーツクラブ活動体制整備事業」を受けて実証事業を開始、総合型地域スポーツの特色を活かした活動を実証してきた。同時に石垣市教育委員会でも「石垣市中学校部活動及びスポーツ少年団在り方検討委員会」を発足し、地域展開の取り組み開始に向けて準備を進めてきた。顧問をはじめとする学校現場への地域展開の浸透度がまだ低く、課題がある。現状の総合型地域スポーツクラブで活動している種目を優先に地域クラブへの移行の実証実施を進めてきた。実施に当たっては地域人材と総合型地域スポーツクラブの指導者を中心に指導者の配置を行い活動してきた。

●実施にあたって生じた課題

〔学校及び生徒・保護者への周知説明〕 現時点では、学校現場を通して生徒・保護者への周知説明不足な点が大きな課題となっている。次年度より石垣市教育委員会と連携して実証事業を行うことにより、しっかりと関係者への情報伝達を行っていく。

〔運営管理団体組織をつくる〕 現在、既存の総合型地域スポーツクラブが運営管理団体としての活動を担うための検証を行っているが、石垣市全体の地域スポーツクラブ活動を運営管理していくためには、地域おこし協力隊等を活用した仕組みづくりが必要になる。今年度石垣市と調整を行ってきたが、予算面の課題により地域おこし協力隊の採用に至らなかった、次年度も引き続き課題解決に向けて取り組んでいく。

●今後の展開

本市には60を超える部活動がある中で、全てを学校・部単位で地域クラブを設置することは困難である。そのため、生徒数や学校区に応じて、現行の部活動をまとめながら、地域スポーツクラブとして活動していく事を考える必要がある。そのためには石垣市が実施主体となるクラブの認証制度を設計することが必要。その上で、地域クラブ数に相応する収支バランスを踏まえた財源の確保及び参加費の価格設定と徴収の在り方、活動施設の割当等検討を行う。それに伴い、学校及び保護者に対して、子どもたちの持続可能なスポーツ環境の整備に関する周知説明会やパンフレット・PR動画等を活用しての理解促進のための取り組みを実施する。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ*

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
方針・制度設計			
検討委員会の設置・運営	→		
推進計画の見直し・策定		→	
教員の兼職・兼業の規定及び運用の見直し		→	
平日含めた地域展開の方針を決定（推進計画）		→	
実施主体・地域クラブ運営			
実施主体（地域クラブ）認証・基準づくり	→		
地域団体等との連携・協議	→		
実施主体の認定・運営	→		
指導者・研修制度			
指導者基準・条件の整理		→	
研修・認証制度の整理		→	
人材バンクの設置・募集・運営		→	
財源の確保・参加費の設定			
経済困窮家庭への支援制度の検討・方針決定		→	
企業版ふるさと納税含む財源確保の仕組みづくり		→	
参加費の設定・周知・受け入れ		→	
学校体育施設の有効活用			
学校施設利用方法（指定管理制度・予約システム含む）の検証		→	
ICT活用の導入・運用		→	
学校体育施設の安心安全な仕組みづくり		→	

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

沖縄県 糸満市

自治体名： 沖縄県糸満市

担当課名： 教育部 学校教育課

電話番号： 098-840-8165

1.自治体の基本情報

基本情報

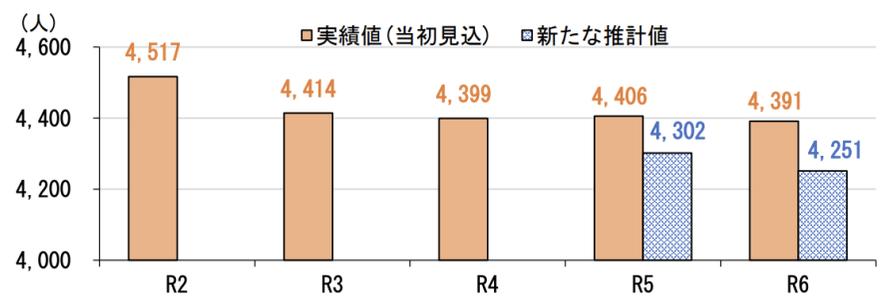
面積	46.40 km ² ※R3.10.1現在
人口	62,234 人 ※R6.12月現在
公立中学校数	7 校 ※内1校は分校
公立中学校生徒数	2,132 人 ※R6.5.1時点
部活動数	63 部活 ※内、運動部活動は56部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

糸満市は、市内に7つの中学校があり、全校生徒数は2,132名で運動部活動加入率は全体で74%である。本市では、運動部活動において顧問教員に競技経験がないことや部活動が教員の長時間労働につながっている等の課題があり、学校の働き方改革が進むなかで、これらの課題解決・軽減を図るために令和6年度に6校に対して18名の部活動指導員を配置している。

地域連携の取り組みを進めている一方では、指導できる種目とその指導者の確保や少子化に伴う学校単位での持続的な部活動の実施が今後困難になってくるであろう課題に直面してい

るのが現状である。子どもたちのスポーツ環境を持続的に且つ多様な体験機会を含めた一体的な環境整備を構築するために、学校部活動から地域クラブ活動への展開を進めていき、地域の実情等の把握を行うとともに、指導者確保をはじめ、指導者の質の担保や生徒のニーズ把握と地域資源を活用した体制整備を検討していく必要がある。



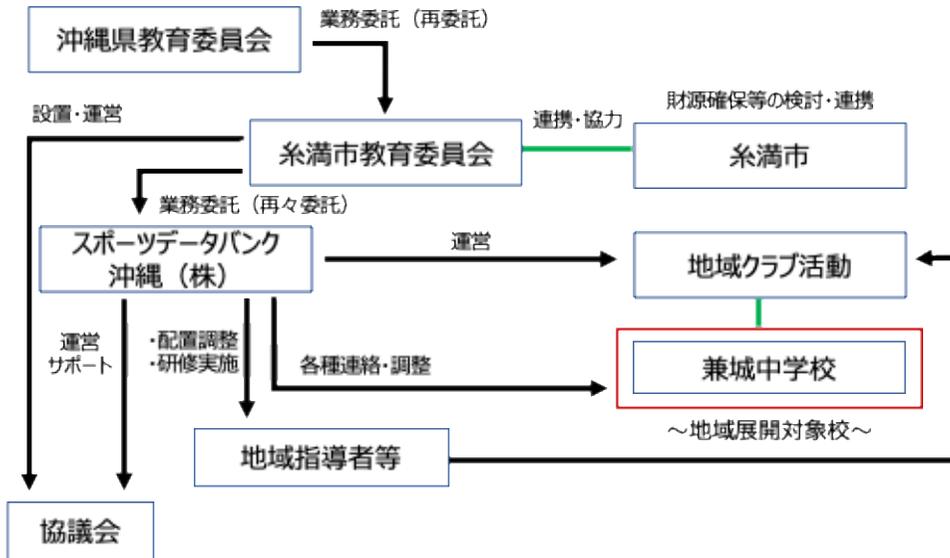
▲ 第2期糸満市子ども・子育て支援事業計画（中間見直し）より

※令和2年4月1日～令和4年4月1日までの実績人口を基に児童人口を推計。今後、中学生年代にあがっていく児童の減少が始まっている

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・ 本事業の主管課・方針の決定
- ・ 学校への通達及び調整
- ・ 協議会の設置、委員選定

◎首長部局

- ・ 教育委員会との連携
- ・ 財源確保に関する検討、連携
- ・ 学校体育施設の有効活用に関する検討、連携

年間の事業スケジュール

令和6年05月	・契約締結 ・庁内関係部署との打ち合わせ
令和6年06月	・対象地域クラブの学校調整 ・対象地域クラブの決定
令和6年07月	
令和6年08月	・指導者の選定
令和6年09月	・指導者研修 ・保護者説明会
令和6年10月	・実証スタート（野球）
令和6年11月	
令和6年12月	・実態調査アンケート
令和7年01月	・実証後ヒアリング
令和7年02月	・事業完了報告

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A: 部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ（野球）
	B: 部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		—
全体の指導者数	4人	全体の運営スタッフ数	3人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
糸満市地域クラブ	民間事業者	野球（新）	月3回程度	主に午前中	2年生 1年生 (15名)	令和6年10月 ～令和7年1月	学校グラウンド	4人 ※指導実績 3名	3人 (内、兼務×3人)	なし	【中体連】 部活動 【その他】 地域クラブ

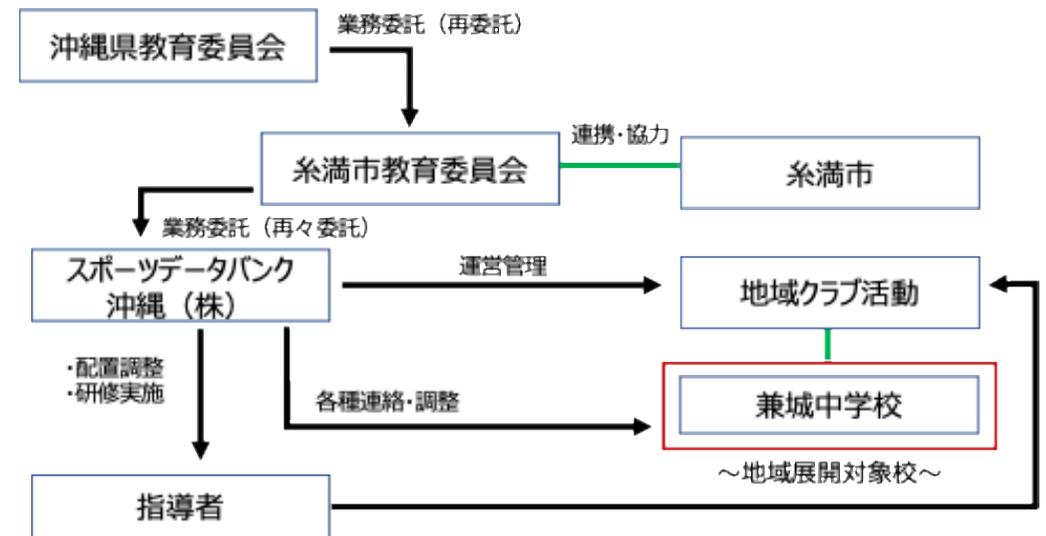
2.実証内容と成果

主な取組例

●糸満市地域クラブ[※] 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球
運営団体名	スポーツデータバンク沖縄株式会社
期間と日数	野球：10月12日～1月19日 (実施期間中：月3回程度)
指導者の主な属性	地域の指導者（外部指導者）
活動場所	学校体育施設（グラウンド）
主な移動手段	徒歩、保護者による送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	野球：0円（徴収なし）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

[運営スタッフ]

➤ 統括責任者

役割：運営管理の総括的な監督を担う

➤ マネージャー・コーディネーター

役割：運営管理・進捗確認を行う（指導者調整・説明会等の実施含む）

[指導者]

役割：研修を踏まえ、適切な地域クラブ活動の運営・活動実施を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

1. 自然災害への対応	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害の基礎知識（特徴、過去の被害 など） 風水害対策について（指導中止・中断の判断 など）
2. 救急蘇生法 一次救命処置と熱中症	<ul style="list-style-type: none"> 一次救命処置（救命の可能性と時間経過 など） 熱中症（熱中症の重症度と症状・治療 など）
3. 部活動における防犯	<ul style="list-style-type: none"> 少年法と犯罪発生状況（少年法に関する知識 など） 防犯から見た体罰（体罰の定義など）
4. コンプライアンスの重要性と ハラスメントの防止	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスとは（部活動指導におけるステークホルダーの期待 など） 事例と解説（不適切行為の事例 など）
5. 子どものメンタルヘルス不調と対応	<ul style="list-style-type: none"> 思春期のメンタルヘルス（思春期の特徴） こころの不調への気づきと対応（声かけのポイント など）
6. 個人情報の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の基本（真に守ってほしい情報の理解 など） ソーシャルメディアの利用と情報漏えい（利用上の留意点 など）



確認テストの実施



各項目のe-Learning学習後にある確認テストにおいて、満点（100点）を取得することで「合格」としている。

受講者の声

Q.地域クラブ活動に関する研修内容（e-Learning）について、特に役立った内容

①コンプライアンスの重要性とハラスメントの防止②子どものメンタルヘルス不調と対応③個人情報の取り扱いについて

→時代の移り変わりに応じた事案や思春期の子どもたちへのケアなど、学び直す良い機会であった

今後の課題と対応方針

今後、地域クラブの拡充を見据えて、指導者募集に際して「量の確保」の観点からは指導者に求める保有資格や研修受講の整理を行い、人材バンクの設置にかかる指導者の基準や要件設定を進めていく。

「質の保障」の観点からは、e-Learning研修と合わせて、本市が今後検討・設定する指導者要件を満たすための研修の在り方や受講支援等の施策も検討を行なっていく。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本市では地域連携の取り組みから教員の負担軽減に向けた外部指導者（部活動指導員）の配置を進めてきたところである。今後、学校単位でのスポーツ活動実施が困難になる予測を踏まえ、地域展開の環境整備に向けて、令和6年度はモデル地区（兼城）を置き、兼城中学校の野球部を対象に地域クラブ活動の実証を行った。外部指導者を配置していたことから、地域クラブ活動の指導者としての確保は比較的スムーズに進んだが、学校部活動と地域クラブ活動の運営、特に活動スケジュールの周知や出欠確認、活動報告等、対応が指導者主導で行われることなど運営管理の面では指導者や保護者の立場からは新しい取り組みとなった。

総じて、活動の流れ等には不具合はなく、子どもたちが地域クラブ活動として休日にスポーツ活動が行える環境が整えられたことは良かった点と言える。今回は団体種目での実施であったが、個人種目の活動もあるため、生徒の人数に応じた適切な環境整備を目指していく必要がある。

●成果の評価

活動面ではスムーズな運営ができたところだが、学校立地の性質上、活動中における保険・補償の課題があがった。事案は学校部活動であったものの、ボールが隣接する家の窓ガラスに当たることなど地域クラブ活動中にも起こりうる内容である。屋外ならではの事故や破損に十分に対応できる保障制度の担保が、今後の検討事項の一つとしてある。備品の破損も起こりうる事象であり、学校備品と共用する場合には、管理や破損があった場合の責任所在の棲み分けや判断も学校と十分なすり合わせが必要になってくる。地域クラブ活動を通して、改めて浮き出た課題が抽出できたことは成果の一つとして捉え、必要とされる整備や制度を今後、検討及び整えていく必要がある。

●今後に向けて

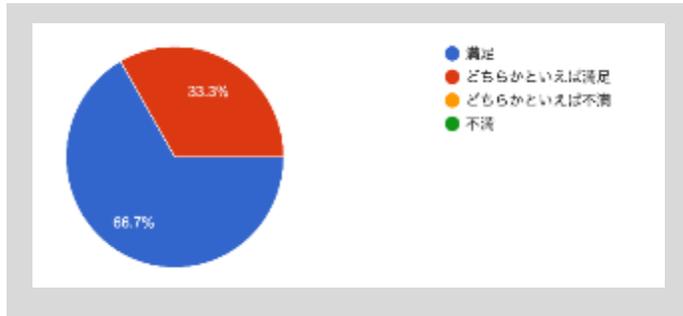
地域クラブ活動の運営の流れの大枠が掴めたため、今後は細かな仕組みづくりや関係する制度の運用等の見直しなどを図っていきたい。また、地域展開での活動場所として学校体育施設を有効的に活用していくため、安全面の強化や使用方法などを学校とも協議を重ね、地域利用のしやすい運用を目指す。

指導者の確保に向けては、本市が今後示す要件を満たすための研修やその支援制度を整え、指導者不足の課題解消につなげていきたい。

アンケート結果・参加者の声

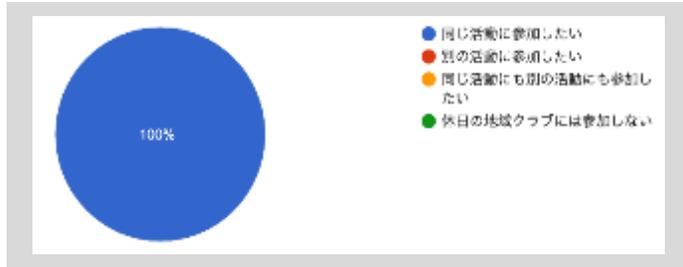
●アンケート結果

Q. 地域クラブ活動の満足度を教えてください



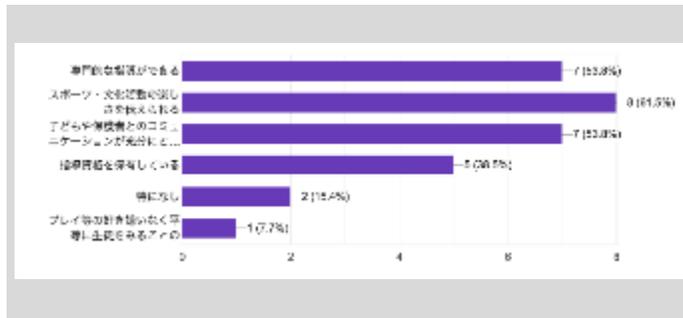
満足 | 66.7%
どちらかといえば満足 | 33.3%

Q. 次年度も休日の地域クラブを継続した場合、参加したいと思うか



同じ活動に参加したい
▼
100%

Q. 指導者に求めるものを教えてください



【上位3】

- スポーツ・文化活動の楽しさを伝えられる
- 専門的な指導ができる
- 子どもや保護者とのコミュニケーションが充分にとれる

●参加者の声

参加生徒

- 希望する活動ができ、挨拶などの礼儀作法が身につけてよかった。
- 勝敗や入賞にこだわらない気軽に楽しめる活動ができた。

指導者

地域のために指導をしたいと思ったため参画した。参加者が活動に積極的であったことや参加者の技術面の成長が見られたり、今後の地域クラブ活動のイメージが湧いた。

保護者

- 学校や保育園などの連絡ツールが複数あるため今回の連絡ツールが新しく加わったことで、手間に感じることもあった。使い勝手の良いもので統一してほしい。
- 中体連の兼ね合いで大会に出場する事が難しくなってくると思う。大会出場もできるように運営や課題をクリアにしていきたい。

顧問教員

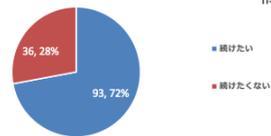
休みが取れて、家族との時間を増やすことができたため、負担軽減につながったと感じている。

アンケート結果・広報資料

12 生徒のスポーツ・文化活動に関する基礎調査結果

【学校部活動のみに所属している】生徒の回答

17. 現在行っている文化・スポーツ活動（学校部活動）は卒業後も続けたいと思いますか n=127



18. 休日の学校部活動を段階的に地域クラブに移行することに対して、心配されることとして、あなたの考えに近いものを教えてください（複数回答可） n=127



※文中の割合表記は、掲載順序のため、合計が100%にならない場合があります。 ※複数回答時の掲載順において、特別な表記がない場合は、割合の単位は「回答数」とする。 © Sports Data Bank Group

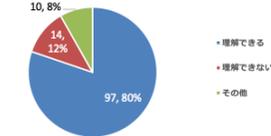
46 保護者アンケート スポーツ・文化活動に関する基礎調査結果

【学校部活動のみに所属している】保護者の回答

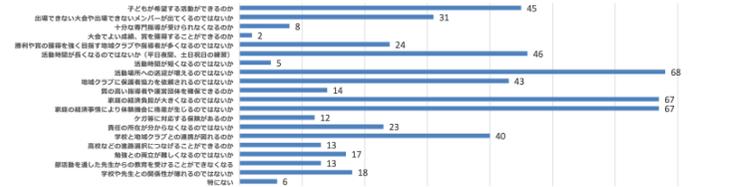
15. お子様が通う中学校区を超えた地域クラブを実施する場合、あなたの考えに近いものを教えてください n=121



16. 休日の学校部活動を地域クラブに移行する際の費用負担について、あなたの考えに近いものを教えてください n=121



17. 休日の学校部活動を段階的に地域クラブに移行することに対して、心配されることとして、あなたの考えに近いものを教えてください（複数回答可） n=121

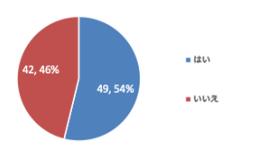


※文中の割合表記は、掲載順序のため、合計が100%にならない場合があります。 ※複数回答時の掲載順において、特別な表記がない場合は、割合の単位は「回答数」とする。 © Sports Data Bank Group

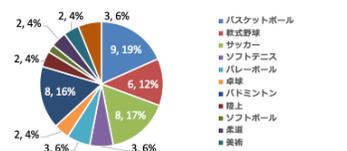
72 教職員アンケート 中学校部活動の基礎調査結果

現在の学校部活動について

4. 学校部活動の顧問をしていますか n=91



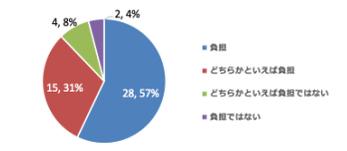
5. 担当する学校部活動を教えてください n=91



6. 顧問を務める学校部活動の経験や専門性はありますか n=49



7. 学校部活動は負担に感じていますか n=49

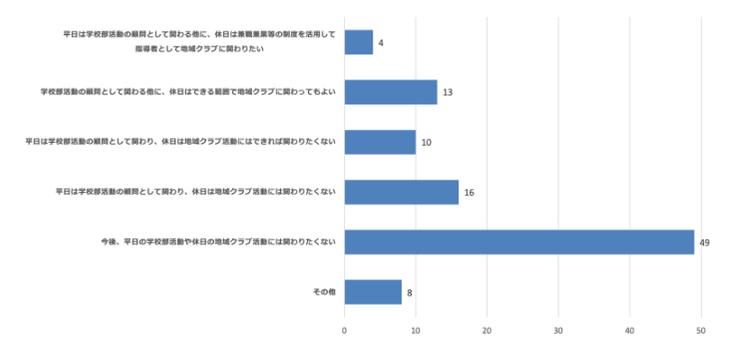


※文中の割合表記は、掲載順序のため、合計が100%にならない場合があります。 ※複数回答時の掲載順において、特別な表記がない場合は、割合の単位は「回答数」とする。 © Sports Data Bank Group

77 教職員アンケート 中学校部活動の基礎調査結果

休日の学校部活動の地域クラブ移行について

15. これからの学校部活動や休日の地域クラブへの関わり方として、あなたの考えに近いものを教えてください（複数回答可） n=91



※文中の割合表記は、掲載順序のため、合計が100%にならない場合があります。 ※複数回答時の掲載順において、特別な表記がない場合は、割合の単位は「回答数」とする。 © Sports Data Bank Group

【アンケート結果】実態調査アンケート（生徒・保護者・教員）

2.実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【地域クラブ（野球）活動の様子】



【地域クラブ（野球）活動の様子】



【協議会の様子】



【トップアスリートとの連携した活動（野球クラブ他）】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

市長部局、市教育委員会、総括コーディネーター、学校、市体育協会、スポーツ少年団、総合型スポーツクラブ、地域指導者（近隣地域含む）
経過

●経過

本市では地域連携の取り組みから教員の負担軽減に向けた外部指導者（部活動指導員）の配置を進めてきたところである。今後、学校単位でのスポーツ活動実施が困難になる予測を踏まえ、地域展開の環境整備に向けて、令和6年度はモデル地区（兼城）を置き、地域クラブ活動の実証を行なった。運営管理の手法や仕組みの構築を実施するとともに、次年度以降の地域クラブ拡充に向けて学校・顧問教員へのヒアリングも行い、種目とその数を整理したところである。

●実施にあたって生じた課題

事案は学校部活動であったものの、学校立地の性質上、ボールが隣接する家の窓ガラスに当たることなど地域クラブ活動中にも起こりうる内容があり、活動中における保険・補償の課題があがった。屋外ならではの事故や破損に十分に対応できる保障制度の担保が、今後の検討事項の一つとしてある。備品の破損も起こりうる事象であり、学校備品と共用する場合には、管理や破損があった場合の責任所在の棲み分けや判断も学校と十分なすり合わせが必要になってくる。

●今後の展開

課題としてあがった活動中における保険・補償の範囲を再度見直し・確認を行い、地域住民も含めて安心な地域クラブ活動が行える環境整備を進めていく。今回、学校や顧問教員へのヒアリングを行い、各学校部活動の実情を整理したため、これらを基に必要な指導者数や参加生徒の人数を勘案したクラブ数の精査を進めていく。同時に、地域団体への周知説明及び協力要請を実施し、指導者確保と地域クラブ活動の在り方を市が一体となって推し進めていく。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ*

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
方針・制度設計			
協議会の設置・運営	→		
推進計画の策定検討		→	
教員の兼職・兼業の規定及び運用の見直し検討		→	
実施主体・地域クラブ運営			
市におけるコーディネーターの配置	→		
実施主体（地域クラブ）認証・基準づくり		→	
地域団体等との連携・協議	→		
実施主体の認定・運営			→
指導者・研修制度			
指導者基準・条件の整理		→	
研修・認証制度の整理		→	
人材バンクの設置・募集・運営		→	
財源の確保・参加費の設定			
経済困窮家庭への支援制度の検討		→	
企業版ふるさと納税含む財源確保の仕組みづくり		→	
参加費の設定・周知・受け入れ			→
学校体育施設の有効活用			
学校施設利用方法（指定管理制度・予約システム含む）の見直し		→	
学校体育施設の安心安全な仕組みづくり		→	